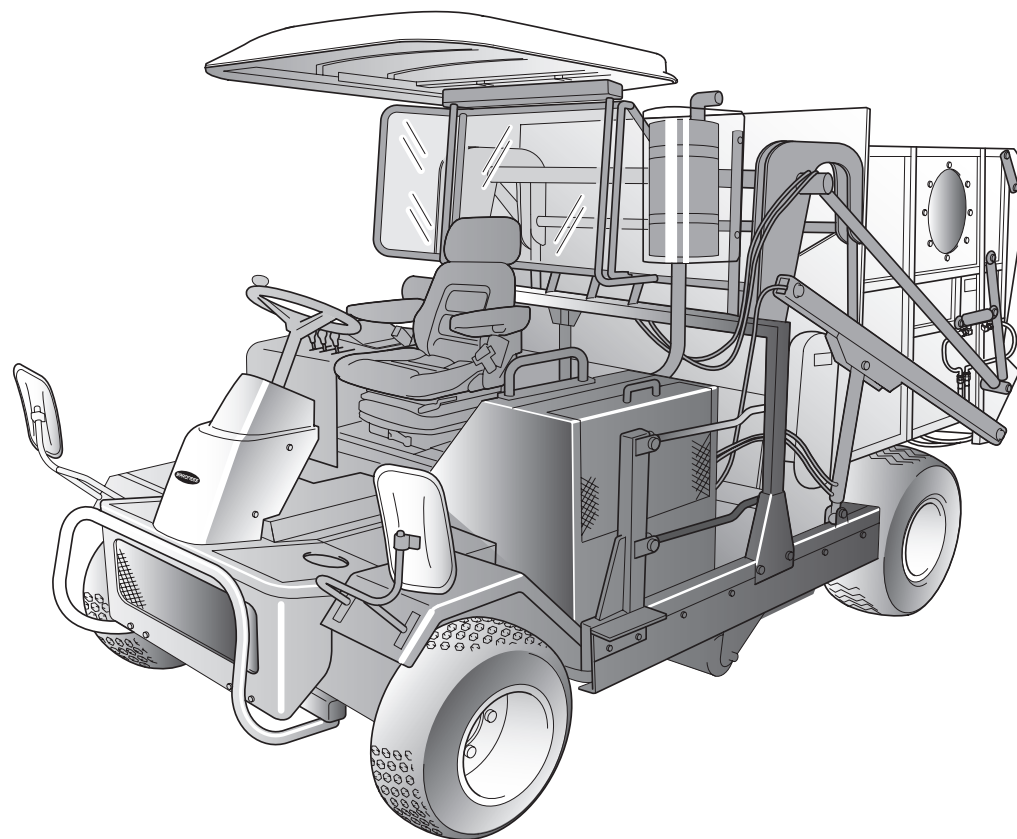


FS1700

フェアウェイスイーパー

取扱説明書



“必読”機械の使用前には必ず本書およびエンジンの取扱説明書をお読みください。

Serial No.10350-

BARONESS[®]
Quality on Demand

Ver.1.3

目 次

ごあいさつ.....	3	6-1. ラジエーターとオイルクーラーの点検と清掃.....	13
はじめに.....	3	6-2. 冷却水の点検と補給.....	13
危険警告記号の説明.....	3	6-3. 油圧作動油の点検と補給.....	14
使用上の注意.....	4	6-4. エアクリナーの点検と清掃.....	14
使用目的.....	4	6-5. バッテリーの点検とバッテリー液の補給.....	14
安全.....	4	6-6. タイヤの点検.....	15
安全上の注意.....	4	6-7. 駐車ブレーキの点検.....	15
安全上の注意事項.....	5	6-8. ベルトの点検.....	15
トレーニング.....	5	6-9. ワイヤーの点検.....	15
運転の前に.....	6	6-10. エンジン周りの点検.....	15
運転操作.....	6	6-11. エンジンオイルの点検と補給.....	15
保守と保管.....	7	6-12. 燃料の点検と補給.....	16
廃棄.....	8	6-13. 各部油漏れの点検.....	16
リサイクルおよび廃棄処分.....	8	7. 締め付けトルク.....	17
リサイクルについて.....	8	7-1. 標準締め付けトルク.....	17
廃棄処分について.....	8	7-2. 機種別締め付けトルク.....	18
製品概要.....	8	8. 使用前の調整.....	19
1. 仕様.....	8	8-1. ハンドルの調整.....	19
2. 各部の名称.....	9	8-2. シートの調整.....	19
3. 規制ラベル.....	10	8-3. ブラシ高さ調整.....	19
3-1. 規制ラベル貼付位置.....	10	9. エンジン始動・停止.....	20
3-2. 規制ラベルの説明.....	10	9-1. エンジン始動上の注意.....	20
機番プレート.....	10	9-2. エンジン始動手順.....	20
排ガス規制適合ラベル.....	10	9-3. エンジン停止手順.....	21
4. 警告ラベルと指示ラベル.....	11	9-4. 安全装置について.....	21
4-1. 警告ラベルと指示ラベルについて.....	11	10. 各部の操作方法.....	21
4-2. 警告ラベル・指示ラベル貼付位置と説明.....	11	10-1. 機械操作上の注意.....	21
取り扱い説明.....	12	10-2. 機械を離れるときの注意.....	21
5. 使用上の注意.....	12	10-3. 操作ボックス.....	22
6. 使用前の点検.....	13	10-4. タコメーター・アワメーター.....	22

10-5. 水温計.....	22	18-1. グリースアップについて.....	32
10-6. 燃料計.....	22	18-2. グリースアップ位置.....	32
10-7. パイロットランプ.....	22	19. メンテナンスの方法.....	33
チャージランプ.....	22	19-1. 作業部の清掃.....	33
サーモスタートランプ.....	23	19-2. ブラシの調整と交換.....	33
オイルプレッシャーランプ.....	23	19-3. ロータリー板の調整と交換.....	33
10-8. ブラシ回転スイッチ.....	23	19-4. 油圧作動油の交換.....	34
10-9. 2WD - 4WD 切り替えスイッチ.....	23	19-5. エンジンオイルの交換.....	34
10-10. 駐車ブレーキスイッチ.....	23	19-6. NTN 等速ジョイントの交換.....	35
10-11. デフロックスイッチ.....	24	19-7. ヒューズボックス.....	35
10-12. ブザー ON・OFF スイッチ.....	24	20. オプション.....	36
10-13. ブザー切り替えスイッチ.....	24	20-1. バックモニター.....	36
10-14. スロットルレバー.....	24	20-2. フード.....	36
10-15. ブラシ上下レバー.....	25		
10-16. バケット上下レバー.....	25		
10-17. バケット開閉レバー.....	25		
10-18. 前進・後進ペダル.....	26		
10-19. ボンネット.....	26		
11. 移動.....	26		
12. けん引.....	27		
13. 作業.....	28		
13-1. 傾斜地作業について.....	28		
13-2. 回収操作.....	28		
13-3. 排出操作.....	28		
14. 長期保管.....	29		
メンテナンス.....	30		
15. メンテナンス上の注意.....	30		
15-1. メンテナンスの注意事項.....	30		
15-2. 高圧オイルによる被害の防止.....	30		
16. メンテナンススケジュール.....	31		
17. ジャッキアップ.....	31		
17-1. ジャッキアップについて.....	31		
17-2. ジャッキアップポイント.....	31		
18. グリースアップ.....	32		

ごあいさつ

このたびは、バロネス製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。
 本書は、この製品の正しい取り扱い方法と調整方法、また点検方法について説明しています。
 いつまでも優れた性能を発揮させ、安全な作業をしていただきますようお願いいたします。






はじめに


本書を読んで製品の使用方法や整備方法を十分に理解し、他人に迷惑のかからない、適切な方法でご使用ください。
 この製品を適切かつ安全に使用するのをお客様の責任です。
 整備を行う場合は専門知識のある要員によって作業を行ってください。
 整備について、また純正部品についてなど、分からないことはお気軽に弊社代理店、販売店または、弊社にお問い合わせください。
 お問い合わせの際には、必ずこの製品の型式と製造番号をお知らせください。
 この製品を貸与または、譲渡する場合はこの製品と一緒に本書をお渡しください。

株式会社 共栄社

危険警告記号の説明

本書では安全に関する重要な取り扱い上の注意事項について、危険警告記号を使用し、次のように表示しています。

	危険警告記号
この記号は「危険」「警告」「注意」に関する項目を意味します。 いずれも安全確保のための重要事項が記載してありますので、注意してお読みいただき、十分理解してから作業を行ってください。 これらを遵守されない場合、事故につながるおそれがあります。	
	危険 その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示しています。
	警告 その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うおそれがあるものを示しています。
	注意 その警告に従わなかった場合、ケガを負うおそれのある、または物的損傷の発生が予測されるものを示しています。
	重要 製品の構造などの注意点を示しています。

	…取扱説明書参照		…注意マーク (はさまれ注意)		…注意マーク (高温部)
	…警告マーク (高圧オイル)		…警告マーク (排気ガスに注意)		…注意マーク (洗浄)
	…燃料 2号軽油		…危険マーク (火気厳禁)		…注意マーク (ロータリーブラシ)
	…注意マーク (ベルトなどの回転部)		…警告マーク (ハイダンブ)		…警告マーク (ハイダンブ)
	…警告マーク (安全のための衣服)		…警告マーク (ハイダンブ)		…警告マーク (ハイダンブ)

使用上の注意

▲注意

本書記載事項は、改良のため予告なしに変更する場合があります。
部品交換を行う場合は、必ず「BARONESS 純正部品」または「弊社指定部品」を使用してください。
純正部品以外の部品を使用して生じた不具合については責任を負いかねます。

この製品を使用する前に下記の取扱説明書を必ずお読みいただき、内容を十分にご理解ください。

- ・バロネス製品の取扱説明書
- ・エンジンの取扱説明書
- ・バッテリーの取扱説明書

使用目的

この製品は、ゴルフ場のスウィーパー作業を目的とした機械です。

この目的以外で使用したり、機械の改造をしないでください。

この製品をその他の目的で使用したり、改造すると大変危険であり、機械を損傷する原因にもなります。

また、この製品は特殊自動車の型式認定を取得していませんので、一般道路は走行できません。

安全

誤使用や整備不良は負傷や死亡事故につながります。

▲危険

この製品は、安全な取り扱いができるように設計されており、工場出荷時には十分な試運転、検査を重ねた上で出荷しております。
事故防止のための安全装置は装備しておりますが、これらは適切な操作、取り扱い、および日常の管理方法が大きく影響します。
機械を適切に使用または管理しない場合、人身事故につながるおそれがあります。
以下の安全指示に従い、安全な作業を行ってください。

安全上の注意

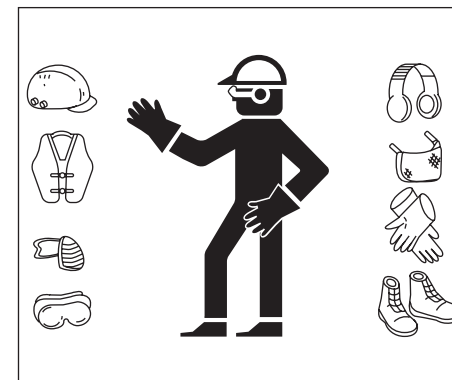
この機械は、ブラシを高速回転させる機械で、振動、傾斜、埃などの使用条件が過酷な上に、使用する場所、障害物、芝生の条件などいろいろあります。使用者は機械の点検整備の徹底を図り、機械操作の熟練に努め、自己の安全を図ると共に、他人に危害を及ぼさないように、正しく機械を使って安全第一に作業されることをメーカーとして強く要望します。

安全のための衣服について

▲警告

安全のため、機械に巻き込まれないきちんとした衣服、作業に適した保護具、メガネ・靴・ヘルメット・手袋などを着用してください。

前かけ、腰タオルなど、特に長いヒモ類は、巻き込まれたり、引っ掛かったりするおそれがあり危険です。



こんなときは運転しない

▲警告

疲れているときは機械を使用しないでください。もし、機械使用中に疲れた場合は、作業を中断し休憩してください。

病気の人、酒を飲んでいる人、薬物の影響のある人は機械を使用しないでください。視覚や敏しょう性、判断力に影響を及ぼします。

機械操作に不慣れな場合は、取り扱い方法や安全注意事項をよく理解してから機械を使用してください。また、子供には使わせないでください。



機械の改造禁止

▲注意

機械の改造はしないでください。部品および油脂類の交換をするときは、当社が指定するものを使用してください。機械の改造や、当社指定以外の部品などを取り付けて運転すると、機械の破損や傷害事故を招くことがあります。

マフラー・エンジン回りのごみは取り除く



▲ 警告

エンジン冷却風入口、エアクリーナー空気取入口、マフラー、エキゾーストパイプ部に芝カスなどの異物がたまりますと、エンジン不調、オーバーヒートなど火災の原因になりますので、速やかに作業を中断し、過熱部が十分冷めるのを待って取り除いてください。

機械を他人に貸すとき



▲ 注意

機械を他人に貸すときは、取扱説明書に記載されている安全上の注意事項や取り扱い要領が分からないため、思わぬ事故を起こすことがあります。取り扱い方法をよく説明し、取扱説明書を渡して使用前にはよく読むように指導してください。

夜間走行・作業の禁止

▲ 警告

夜間や天候不良など視界の悪いときは走行や作業をしないでください。

一般道走行の禁止



▲ 注意

この製品は特殊自動車の型式認定を受けておりませんので、一般道路の走行はできません。

安全上の注意事項

トレーニング

1. 本書や関連する機器の説明書をよくお読みください。
各部の操作方法や警告ラベル、機械の正しい使用方法に十分慣れておきましょう。
2. オペレーター、整備士が日本語を読めない場合には、オーナーの責任において、本書の内容を十分に説明してください。
3. すべてのオペレーター、整備士に適切なトレーニングを行ってください。
トレーニングはオーナーの責任です。
特に以下の点についての十分な指導が必要です。
〔1〕 乗用機械を取り扱うときは注意と集中が必要である。
〔2〕 斜面で機体が滑り始めるとブレーキで制御することは非常に難しくなる。
斜面で制御不能となる主な原因：
 - タイヤのグリップ不足
 - 速度の出しすぎ
 - 不適切なブレーキ操作
 - 不適切な機種選定
 - 地表条件（凸凹、凍結、ぬかるみ）特に傾斜角度を正しく把握していない場合
 - 不適切な連結と重量分配
4. 子供（18才未満）や正しい運転知識の無い方には機械を操作させないでください。地域によっては機械のオペレーターに年齢制限を設けていることがありますのでご注意ください。
5. オーナーやオペレーターは自分自身や他の安全に責任があり、オーナーやオペレーターの注意によって事故を防止することができます。
6. 人身事故や器物損壊などについてはオーナー、オペレーター、整備士が責任を負うものであることを忘れないでください。
7. 本書には、必要に応じて追加の安全情報が記載されています。
8. 通常の操作位置から機械の左右を決めています。

運転の前に

1. 作業場所を良く観察し、安全かつ適切に作業するには、どのようなアクセサリやアタッチメントが必要かを判断してください。メーカーが認めた以外のアクセサリやアタッチメントを使用しないでください。
2. 作業には安全靴と長ズボン、ヘルメット、保護メガネ、および聴覚保護具（イヤーマフ）を着用してください。長い髪、だぶついた衣服、装飾品などは可動部に巻き込まれる危険があります。また、裸足やサンダルで機械を運転しないでください。
3. 機械が使われる区域を点検し、小石、玩具、および針金のような、機械がはね飛ばす可能性のあるすべての物体を取り除いてください。
4. 子供を作業区域に入れないでください。オペレーター以外の大人の監視下に置いてください。
5. 燃料の取り扱いには十分注意してください。



警告

燃料は引火性が高いので、以下の注意を必ず守ってください。

- [1] 燃料は専用の容器に保管する。
- [2] 給油はエンジンを始動する前に行う。
エンジンの運転中やエンジンが熱いときに燃料タンクのフタを開けたり給油をしない。
- [3] 給油は必ず屋外で行い、給油中は火気厳禁とする。喫煙しない。
- [4] 燃料がこぼれたらエンジンを始動せずに、機械を別の場所に動かし、気化した燃料ガスが十分に拡散するまで引火の原因となるものを近づけない。
- [5] 燃料タンクや燃料容器のフタは確実に閉める。
6. 運転操作装置（ハンドル、ペダル、レバーなど）、安全装置、防護カバーが正しく取り付けられ、正しく機能しているか点検してください。
これらが正しく機能しないときには作業を行わないでください。
7. ブレーキの効きが悪かったり、ハンドルに著しいガタがある場合は、必ず調整、修理してから使用してください。
8. マフラーが破損したら必ず交換してください。

運転操作

1. 有毒な一酸化炭素ガスがたまる可能性のある閉め切った場所では、エンジンを作動しないでください。
2. 十分に明るい場所でのみ運転し、穴や、隠れた危険を避けるようにしてください。
3. エンジンを始動する前に作業部への駆動をすべて遮断し、走行シフトをニュートラルにして、駐車ブレーキをかけてください。
運転席に着座してエンジンを始動してください。
シートベルトがある場合は着用してください。
4. 「安全な斜面」はありません。
芝生の斜面での作業には特に注意が必要です。
転倒を防ぐために
[1] 斜面では急停止、急発進しない。
[2] 走行クラッチがある機械はクラッチをゆっくりつなぐ。
また坂を下る場合は、走行ギヤを入れた状態にする。
[3] 斜面の走行や旋回は低速で行う。
[4] 凸凹や穴、隠れた障害物が無いか常に注意する。
[5] 斜面を横切りながらの作業は、そのような作業のために設計された機械以外では絶対に行わない。
[6] 決められた角度以上の傾斜地または転倒やスリップの危険がある場所では、絶対に作業を行わない。
5. ガードが破損したり、正しく取り付けられていない状態のまま運転しないでください。インターロック装置は絶対に取り外さないでください。正しく調整した状態で使用してください。
6. エンジンのガバナーの設定を変えたり、エンジンの回転速度を上げすぎたりしないでください。エンジンを規定以上の速度で運転すると、人身事故を起こす危険が増大します。
7. 運転位置を離れる場合は次を厳守してください。
[1] 平らな場所に停止する。
[2] 作業部の動力を遮断し、作業部を下げる。
[3] 走行シフトをニュートラルにして、駐車ブレーキをかける。
[4] エンジンを止め、キーを抜き取る。

8. 以下のような状況になった場合には、アタッチメントの駆動を停止し、エンジンを止め、キーを抜き取ってください。
 - 〔1〕 燃料を給油するとき。
 - 〔2〕 作業高さを調整するとき
ただし運転位置から遠隔操作で行える場合は除きます。
 - 〔3〕 詰まりを取り除くとき。
 - 〔4〕 機械の点検、清掃、整備作業などをするとき。
 - 〔5〕 機械に異物がぶつかったり、異常な振動を感じたとき。
機械を再始動する前に機械の損傷を点検・修理してください。
9. ブラシ部や回転部に手足を近づけないでください。
10. 後進するときは、下方と後方の安全に十分注意してください。
11. オペレーター以外の人を乗せないでください。
12. 周囲に人がいるとき、特に子供やペットがいるときは、絶対に作業を行わないでください。
13. 旋回するとき、管理道路やカート道、歩道を横断するときは減速し、周囲に十分注意してください。
14. 移動走行中や作業を休んでいるときは、作業部への駆動を止めてください。
15. アルコールや薬物を摂取した状態で運転をしないでください。
16. 機械をトラックやトレーラーに積載する場合は、十分注意してください。
積み降ろしは平らな安全な場所で、トラックやトレーラーの駐車ブレーキをかけ、エンジンを止め、輪止めをして行ってください。
トラックやトレーラーに積載して移動するときは、機械の駐車ブレーキをかけ、エンジンを止め、強度が十分あるロープなどで機械を固定してください。
あゆみ板を使用する場合は、幅、長さ、強度が十分あり、スリップしないものを選んでください。
17. 機械を輸送する場合は、燃料コックは閉じてください。
18. 見通しの悪い曲がり角、植え込みや立ち木などの陰では安全に十分注意してください。
19. わき見運転、手放し運転はしないでください。
20. エンジンを停止するときにはエンジン回転を下げてください。
燃料コックが付いている場合は、燃料コックを閉じてください。
21. 落雷のおそれがあるときは、作業を中断して機械から離れてください。

保守と保管

1. 修理・調整・清掃作業の前には、平らな場所で機械を停止し、作業機を下げ、駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止し、キーを抜き取ってください。また、機械のすべての動きが完全に停止したことを確認し、作業を行ってください。
2. 機械から離れるときは、必ずバケットを下げておいてください。
3. 火災防止のため、エンジンやマフラー、バッテリー、燃料タンクの周囲、ブラシ部の周囲、および駆動部に、余分なグリース、草や木の葉、埃などがたまらないよう注意してください。
オイルや燃料がこぼれた場合はふき取ってください。
4. 閉めきった場所に機械を保管する場合は、エンジンが十分冷えていることを確認してください。
5. 機械にシートをかけて保管する場合は、過熱部分が十分冷めていることを確認してから行ってください。
6. 炎や火花がある屋内では、タンクに燃料が入った状態で保管しないでください。
7. 機械の保管・搬送時には、燃料コックが付いている機械は、燃料コックを閉じてください。
8. 炎の近くに燃料を保管しないでください。
9. 絶対に訓練を受けていない人に機械を整備させないでください。
10. 点検・整備はマフラーやエンジンが冷めてから行ってください。
11. 調整、整備などに必要な工具類は適切な管理をし、目的に合った工具を正しく使用してください。
12. 機械をジャッキアップする場合は、ジャッキスタンドなどを使用し、確実に支えてください。
13. 部品を取り外すときなど、スプリングや油圧などの圧力が一気に解放される場合がありますので、注意してください。
14. 油圧機器を取り外すなど、油圧システムの整備をする場合は、必ず減圧してから行ってください。
15. 油圧システムのラインコネクターは十分に締まっているかを確認してください。
油圧をかける前に油圧ラインの接続やホースの状態を確認してください。
16. 油圧回路のピンホール漏出やノズルの油漏れを確認する場合は、絶対に手ではなく、紙や段ボールなどを使用して漏出箇所を探してください。
高圧オイルは、皮膚を突き破ることがあり、人的事故をおこすおそれがありますので、十分注意してください。

万一、油圧作動油が体内に入った場合には、この種の労働災害に経験のある施設で数時間以内に外科手術を受けないと壊疽を起こします。

17. 修理作業の前にはバッテリーケーブルを取り外してください。
先にマイナスケーブルを取り外してからプラスケーブルを取り外してください。取り付ける場合は、プラスケーブルから取り付けてください。
18. 配線などが接触したり、被覆のはがれがないように注意してください。
19. 可動部に手足を近づけないでください。
エンジンが作動したままで調整作業をしないでください。
20. バッテリーの充電は、火花や火気のない換気の良い場所で行ってください。
バッテリーと充電器の接続や切り離しを行う場合は、充電器をコンセントから抜いておいてください。
また、ゴム手袋や保護メガネなどを着用し、絶縁された工具を使用してください。
21. すべての部品が良好な状態にあるか点検を怠らないでください。
消耗したり破損した部品やラベルは安全のため早期に交換してください。
22. 常に機械全体の安全を心掛け、ナットやボルト、ねじ類が十分締まっているかを確認してください。
23. 燃料タンクの清掃が必要になった場合は、屋外で作業を行ってください。
24. エンジンクーラントを飲み込むと、健康に害をおよぼしたり死を引き起こすことがあります。
子供やペットの手の届かないところに保管してください。

廃棄

リサイクルおよび廃棄処分

リサイクルについて

バッテリーなどは環境保護および資源の有効活用のためにリサイクルされることを推奨します。

また、地域によっては法律により義務付けられています。

廃棄処分について

整備、修理などの作業で出た廃棄物については、地域の法律に従って適切に処分してください。

(例：廃油、不凍液、ゴム製品、配線など)

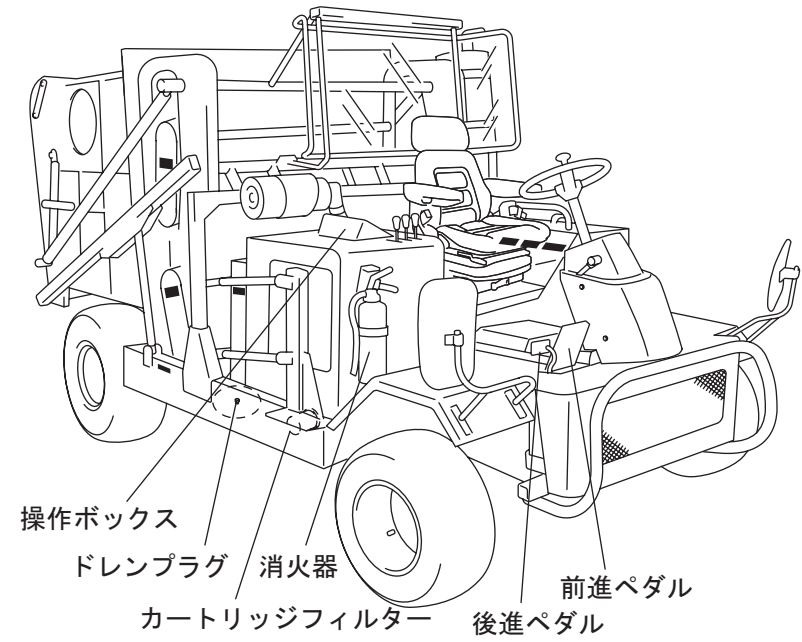
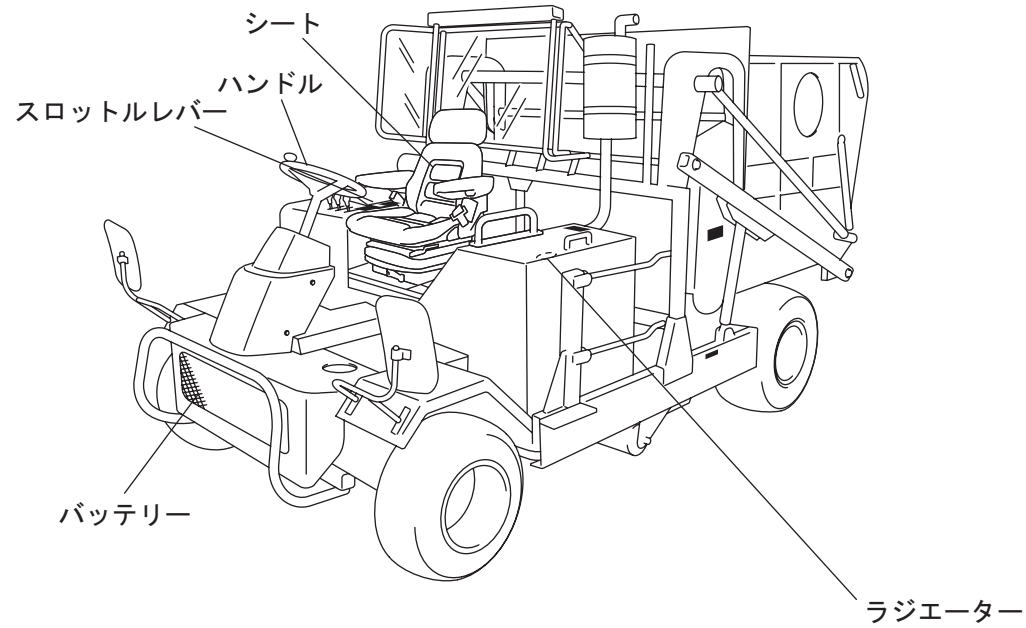
製品概要

1. 仕様

型式	FS1700	
寸法	全長	385 cm
	全幅	213 cm
	全高	ルーフ 221 cm ハンドル 149 cm
質量	本体 (燃料タンク空)	作業時 1,855 kg 移動時 2,242 kg
	最小回転半径	490 cm
エンジン	型式	Kubota V2403-M
	種類	立形水冷4サイクルディーゼルエンジン
	総排気量	2,434 cm ³ (2.434 L)
	最大出力	31.2 kW (42.4 PS) /2,400 rpm
燃料タンク容量	軽油 40.0 dm ³ (40.0 L)	
燃料消費率	237 g/kW・h (定格出力時)	
エンジンオイル容量	9.7 dm ³ (9.7 L)	
油圧タンク容量	62.0 dm ³ (62.0 L)	
作業幅	150 cm	
作業範囲	-	
バケット容量	2,100 dm ³ (2,100 L)	
駆動方式	走行	HST (無段変速) 方式 (2駆・4駆切り替え)
	作業部	油圧・メカ方式
速さ (HST)	前進	2駆 0 - 18.0 km/h 4駆 0 - 9.0 km/h
	後進	-
速さ (メカ)	-	
能率	10,800 m ² /h (4駆作業時: 9.0 km/h x 作業幅 x 0.8)	
使用最大傾斜角度	20度	
タイヤサイズ	前輪	23.0 x 10.50 - 12
	後輪	26.5 x 14.00 - 12
タイヤ空気圧	前輪	150 kPa (1.5 kgf/cm ²)
	後輪	150 kPa (1.5 kgf/cm ²)
バッテリー	105D31R	
スパークプラグ	-	

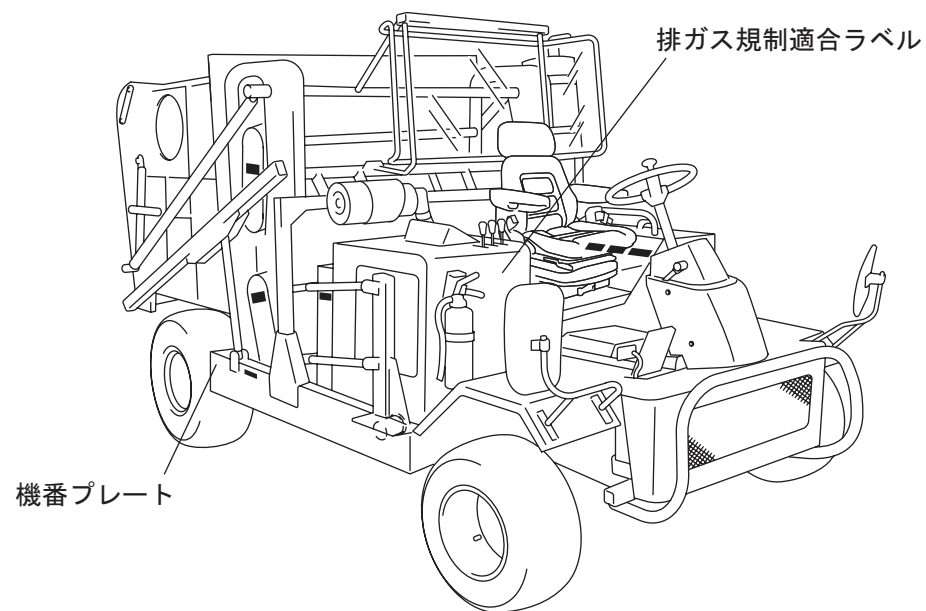
※ 出荷時のエンジン最高回転速度は、2,400 rpm

2. 各部の名称



3. 規制ラベル

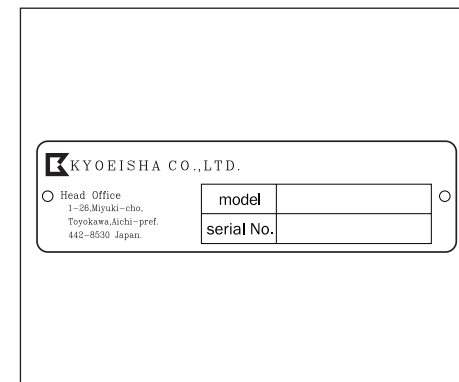
3-1. 規制ラベル貼付位置



3-2. 規制ラベルの説明

機番プレート

機番プレートは、型式と機番が記載されています。



排ガス規制適合ラベル

基準適合標示マークです。

規制適用日以降に製作または輸入された特定特殊自動車は、基準適合表示などが付されたものでなければ日本国内で使用できません。



4. 警告ラベルと指示ラベル

4-1. 警告ラベルと指示ラベルについて

重要 この製品には、警告ラベルと指示ラベルが貼り付けられています。ラベルはきれいに保ち、損傷や汚れ、はがれがあった場合は、新しいものと交換してください。

交換するラベルの部品番号は、パーツカタログに記載されています。購入販売店または弊社に注文してください。

4-2. 警告ラベル・指示ラベル貼付位置と説明

K4205001970
高温部冷却液噴出注意ラベル

▲注意
冷却液の噴出に注意。
熱いときはあけないでください。



K4205000560
マフラー注意マーク

▲注意
運転中及び運転停止直後にカバーやマフラーにふれないで下さい。ベルトや回転物で指や手をケガをする危険があります。

K4205000670
ベルト回転物注意マーク

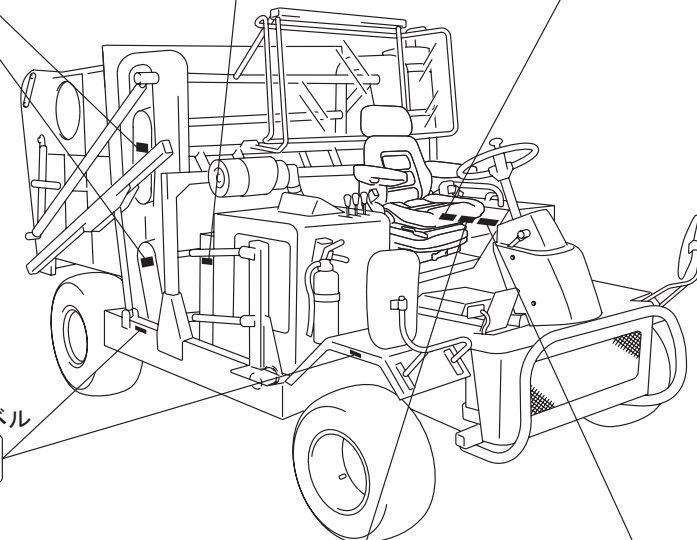
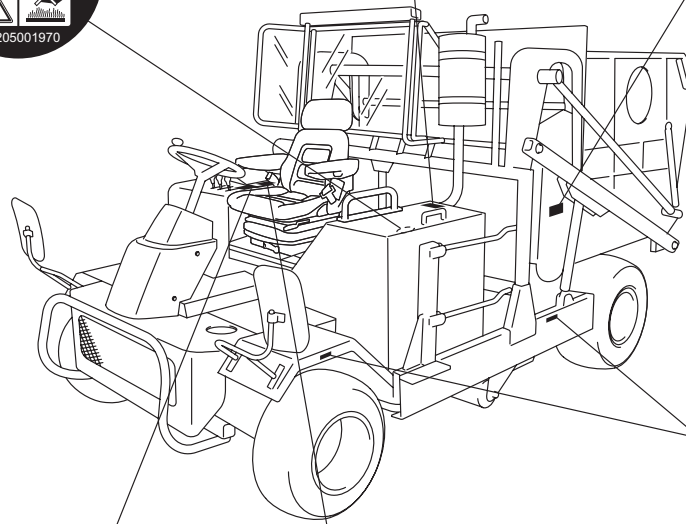
▲注意
動力作動中は回転物に触れないで下さい。ベルトや回転物で指や手をケガをする危険があります。

K4205000420
オイル使用ラベル

▲注意
油圧作動油交換について
1. 作動油の交換は、1年又は500時間の短い方で交換して下さい。
2. フィルターは、作動油交換時合わせて交換して下さい。
3. 作動油が乳化および劣化が著くなった時は即交換して下さい。
4. 作動油補充は、指定銘柄作動油を補充して下さい。

K4205000630
取扱上の注意

▲注意
取扱上の注意
この機械を運転する前に取扱い説明書を熟読し十分機械の操作を理解してから運転して下さい。
危険・警告・注意等ラベルの指示にしたがって行動しないと死傷又はケガをする結果となります。
マークやラベルの説明文はきれいに保ち、無くなったり損傷があった場合には、新しいものに交換して下さい。



K4205001620
空気圧注意ラベル
タイヤ空気圧 150kPa
(1.5kgf/cm²) 厳守の事

▲警告
1. 軟弱地、不整地や傾斜地上でのハイダンプは機体のバランスがずれ大変危険ですので、絶対に行わないこと。
2. 本体が走行中のハイダンプは、機体のバランスがずれ、大変危険ですので絶対に行わないこと。
3. 周囲に作業の障害となる人や動物や車などがいるとき。
4. 直上に電線や立木など作業中ぶつかりそうな障害物があるとき。

K4205001420
ハイダンプ警告マーク

▲警告
高圧オイルによる被害の防止
・高圧オイルの圧力に吹き付けられると、重大な被害が起きます。
・高圧ライン・ホース・接手を外す前に、圧力を逃がすこと。
・運転を始める前に（高圧になる前に）全ての接手の締め具合を確認すること。
・高圧ラインの小穴・ノズルには、手や身体を近づけないこと。
・高圧の直撃には、小さな距離を歩かないこと。
・もし、高圧オイルが皮膚に吹き付けられたら、2～3時間以内に医師の手当を受けなければなりません。

K4205000390
高圧オイル警告ラベル

▲注意
ロータリーブラシの交換は全部同時に新品と取り替えてください。一部だけの交換は重量バランスが崩れ、危険ですので、絶対に行なわないでください。ロータリー板も同様です。作業前にボルト、ナットの増し締めチェックを必ず行ってください。ボルト、ナットが緩んだまま作業すると大変危険です。

K4205001200
ロータリー・ブラシ注意マーク

▲注意
作業部の洗浄
作業終了後は、速やかに各部の水洗いによる洗浄を行ってください。
洗浄箇所→ロータリーケース内外、ロータリーブラシ、ロータリー板、ロータリーローラー、パケット内外、タイヤ、フレーム等。
エンジン部、油圧部、バッテリー部は水洗いせず、布で拭き、エア等で乾かして水を飛ばしてください。
洗浄後は、しっかりと乾燥させ、各注油箇所には注油を行ってください。
洗浄を怠ると、次回作業時に支障を来したり、故障や危険な事故へつながる恐れがあります。

K4205001210
洗浄注意マーク

取り扱い説明

5. 使用上の注意

機械使用前の準備



▲ 注意

- 機械の使用前と後には必ず点検・整備をしてください。
- 防護カバーなどの防護部品は、使用者の危険を防止するものです。必ず所定の位置に取り付け、破損した場合は交換してください。
- 機械を運転する前に警告表示ラベルや取扱説明書を熟読し、機械操作を十分理解してから運転してください。

回転部の注意



▲ 警告

- 作業やメンテナンス中、ベルトなどの回転している部分は危険ですので、手、足や物を入れたり、触れたりしないでください。
- 運転中、まわりに人がいないか、破損するおそれの物がないか確認し作業してください。

高温部の注意



▲ 注意

- 運転中および運転停止直後にマフラーやエンジンなどに触れないでください。火傷をするおそれがあります。
- 運転停止直後は、油圧オイルおよび油圧機器が非常に高温になっており、火傷をするおそれがありますので、メンテナンスを行う際には、十分冷えてから行ってください。

燃料取り扱い上の注意



2号軽油



▲ 警告

- 燃料給油時は火気厳禁です。
すべての裸火とタバコを消してください。
- 給油は屋外で、エンジンを停止し、エンジンを十分に冷やしてから行ってください。
- 火災を防ぐため、機械は常にきれいに保ち、ゴミの堆積、グリース、オイルの付着が無いようにしてください。
- こぼれた燃料は、きれいに拭き取ってください。



6. 使用前の点検

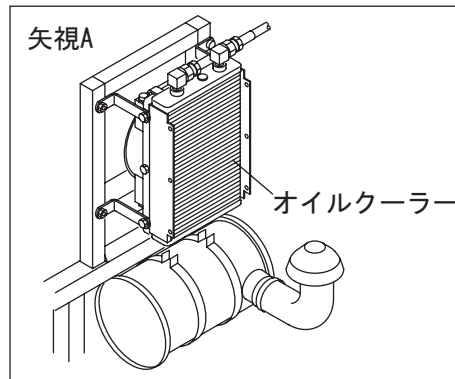
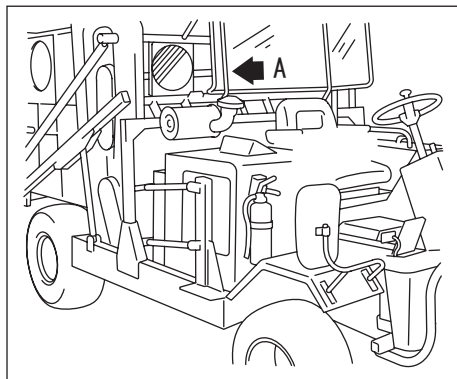
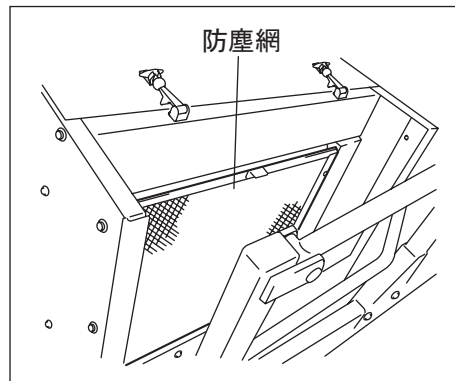
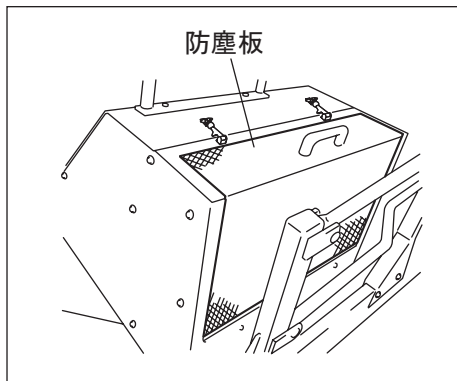
機械の性能を引き出し、長くご使用いただくために、必ず使用前の点検をしてください。

6-1. ラジエーターとオイルクーラーの点検と清掃

- ラジエーターに損傷が無いか確認してください。
- ラジエーターに汚れが無いか確認してください。
- オイルクーラーに損傷が無いか確認してください。
- オイルクーラーに汚れが無いか確認してください。

重要 清掃をしないとエンジン、油圧機器が故障を生じたり、エンジンのオーバーヒート、焼き付きの原因となります。

ラジエーター、オイルクーラー、防塵板および防塵網にゴミが付着している場合は、圧縮空気を吹き付けて清掃してください。

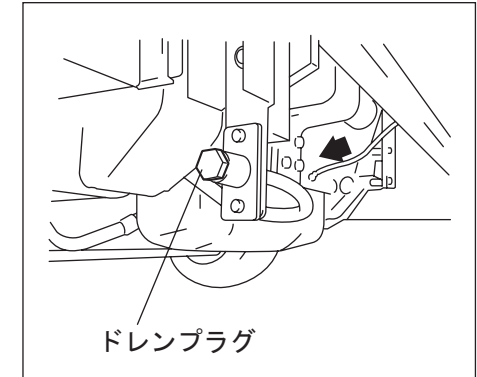
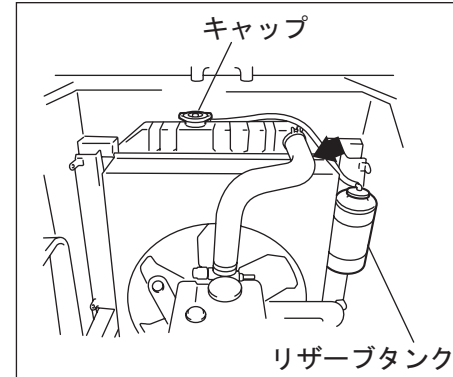


6-2. 冷却水の点検と補給

注意 点検と補給はエンジンが十分冷えているときに行ってください。

注意 ラジエーターのキャップは加圧式です。エンジンが過熱した状態で、ラジエーターのキャップを取り外しますと高温の蒸気が吹き出して、火傷するおそれがあります。水温が下がり、圧力が下がってからキャップに厚手の布などをあて、徐々に左へ回して緩め、取り外してください。

- リザーブタンクの水位が「FULL」と「LOW」の間にあることを確認してください。
- 冷却水が「LOW」の線より下の場合は、リザーブタンクのキャップ部から「FULL」の線まで補給してください。なお、リザーブタンクの冷却水が無い場合は、ラジエーターのキャップ部からも口元まで補給します。
- 通常の点検では、ラジエーターのキャップを開けないでください。
- 減った冷却水の補給は、必ずきれいな水をご使用ください。
- 冬になる前に、冷却水を排出するか不凍液（ロングライフクーラント）を入れてください。

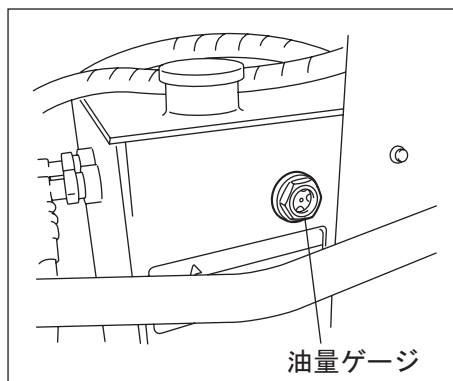


ロングライフクーラント（LLC）濃度と凍結温度の関係

凍結温度	LLC 濃度（容量%）
-10 ° C (14 ° F) まで	20 %
-15 ° C (5 ° F) まで	30 %
-20 ° C (-4 ° F) まで	35 %
-25 ° C (-13 ° F) まで	40 %

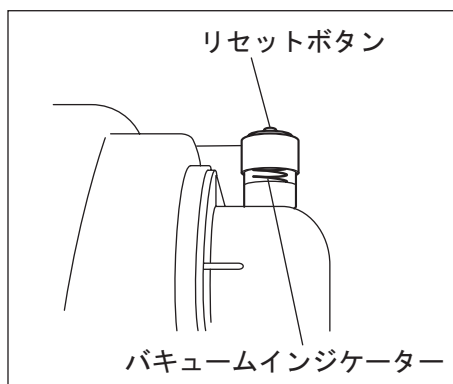
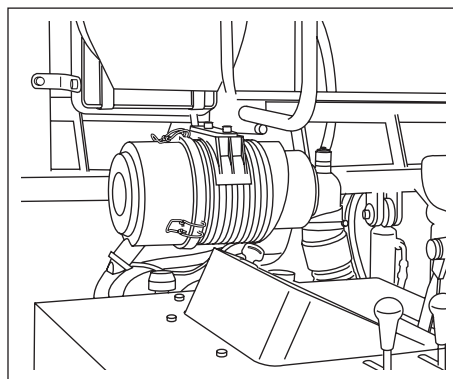
6-3. 油圧作動油の点検と補給

- 機械を水平にし、ブラシフレームとバケットを下げた状態で油量ゲージの中心まで作動油が入っているか常に点検し、少ないときは補給してください。
- 作動油の補給はシェルテラス S2M46 (相当品) を使用してください。



6-4. エアクリーナーの点検と清掃

- エアクリーナーのエLEMENTが汚れていると、エンジン不調の原因となります。汚れている場合は、ELEMENTを傷つけないように注意して軽く叩くか、内側から圧縮空気を吹き付けて清掃してください。
- 点検はバキュームインジケータで行ってください。エアクリーナーのエLEMENTが汚れてくるとバキュームインジケータに赤いリングが見えてきますので、ELEMENTを取り外し清掃を行ってください。
- エアクリーナーELEMENTは200時間ごとに交換してください。掃除後はELEMENTを装着し、リセットボタンを押してください。



6-5. バッテリーの点検とバッテリー液の補給



⚠ 危険 バッテリーの点検や充電時は火気厳禁です。

⚠ 危険 バッテリー液は希硫酸ですので身体や車体に付けないでください。もし付着した場合は直ちに水でよく洗い、特に目に入ったときや飲み込んだ場合は、速やかに医師の治療を受けてください。

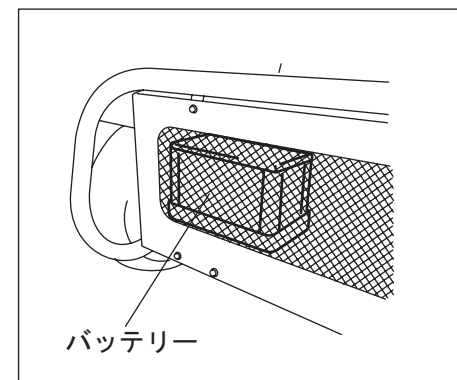
⚠ 危険 バッテリーからケーブルを外すときはマイナス側から外し、取り付けるときはプラス側から取り付けてください。逆にすると工具などが機体に接触した場合ショートして火花が生ずるおそれがあります。また、バッテリーケーブルを接続するときはプラスとマイナスを間違えないようにしてください。もし間違えた場合、バッテリーやバッテリー電装品を損傷させます。

⚠ 危険 バッテリー液を補給する際は、保護服、保護メガネなどを着用してください。

⚠ 警告 バッテリー液の液面を「LOWER LEVEL」(最低液面線)以下にしないでください。バッテリー液の液面が「LOWER LEVEL」(最低液面線)になったまま使用または、充電するとバッテリーが爆発するおそれがあります。

- 水で湿らせた布で液面線の周囲を清掃してください。
- バッテリー液の液面が「UPPER LEVEL」(最高液面線)と「LOWER LEVEL」(最低液面線)の間にあることを確認してください。

- バッテリー液の液面が「UPPER LEVEL」(最高液面線)と「LOWER LEVEL」(最低液面線)間の半分以下に低下している場合は、「UPPER LEVEL」(最高液面線)まで精製水を補給してください。



6-6. タイヤの点検

▲注意 空気圧を規定値以上にしないでください。

- タイヤの空気圧、亀裂、損傷、異常磨耗を調べてください。

空 気 圧	
標準タイヤ	
前輪	150 kPa (1.5 kgf/cm ²)
後輪	150 kPa (1.5 kgf/cm ²)

6-7. 駐車ブレーキの点検

- 駐車ブレーキスイッチを「ロック」側に押したとき、ブレーキが効くことを確認してください。
- 駐車ブレーキスイッチを「解除」側に押したとき、ブレーキの引きずりが無いことを確認してください。

6-8. ベルトの点検

▲警告 ベルトの点検は、必ずエンジンを停止させた状態で行ってください。

重要

ベルトの緩みや損傷、ファンの損傷は、オーバーヒートや充電不足の原因となります。

- ベルトの中央を指で押さえて、張り具合を確認してください。
- 亀裂、損傷、異常磨耗が無いことを確認してください。

6-9. ワイヤの点検

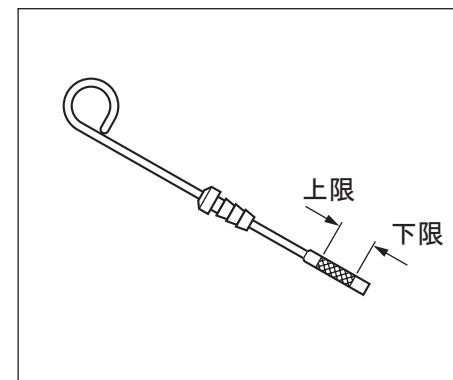
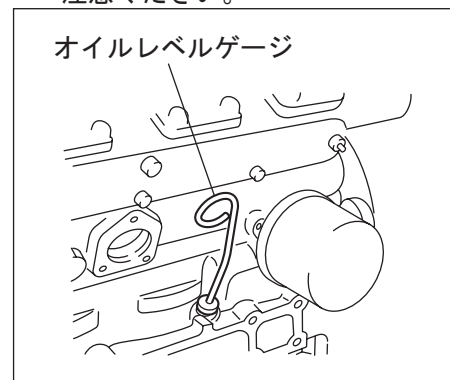
- ワイヤに亀裂、損傷が無いことを確認してください。
- 亀裂、損傷などがある場合は、直ちに交換してください。

6-10. エンジン周りの点検

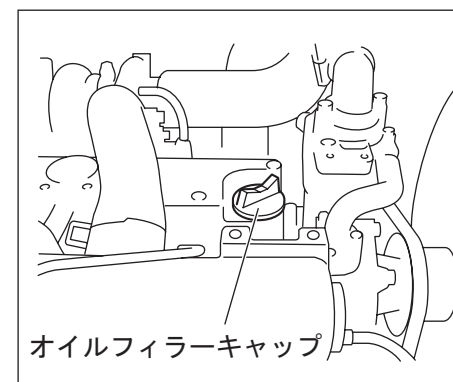
- 燃料システムの部品は、ひび割れや漏れが無いことを確認し、必要があれば交換してください。
- マフラーやマフラーの周りに、草や葉および可燃物が付着している場合は、圧縮空気を吹きつけて清掃してください。

6-11. エンジンオイルの点検と補給

- エンジンを水平状態にして、オイルレベルゲージでオイルの量を調べてください。上限と下限の間にあれば適量です。
- オイルが不足している場合は補給し、汚れている場合は交換してください。
- オイルレベルの点検は、エンジンを停止して10～20分後に行ってください。
- エンジンオイルの入れ過ぎは、エンジンの破損、故障の原因となりますのでご注意ください。



- エンジンオイルの補給はオイルフィルターより行います。
- エンジンオイルはAP1 サービス分類のCF級以上で、使用環境（気温）に合わせたSAE粘度のオイルを使用してください。
- 補給したエンジンオイルはオイルパンに下がるまでに、ある程度時間を要します。補給してから10～20分後に、オイルの量を再度点検してください。



6-12. 燃料の点検と補給



▲警告

燃料ゲージのF (FULL) の位置以上に給油はしないでください。
燃料を入れ過ぎると、傾斜地での走行・作業時などにキャップより燃料があふれる可能性があります。

▲警告

燃料給油時は、火気厳禁です。
喫煙しないでください。

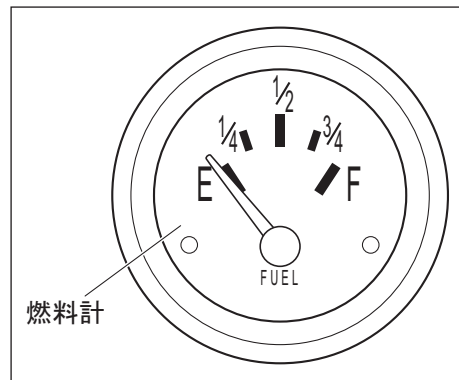
▲警告

燃料の給油はエンジンを停止し、十分冷えてから行ってください。

機械を水平な状態にし、燃料計にて量の確認をしてください。

燃料計が、E (EMPTY) に近づいたら早めに燃料 (軽油) の給油を行ってください。

燃料タンク容量は、40.0 dm³ (40.0 L) です。



6-13. 各部油漏れの点検

▲注意

油圧系統のメンテナンスを行うときは、ブラシフレームとバケットを下げてください。

- 油圧ホースの油圧金具、ポンプ、シリンダーなどについている油圧金具などは50時間ぐらい使用すると、締め付け部の緩みなどで油が漏れることがありますので増し締めをしてください。
- 機械の下を確認し、オイルやグリースなどの漏れが無いか確認してください。

7. 締め付けトルク

重要

締め付けトルク一覧を参照してください。

異常な締め付け、オーバートルクでの締め付けなどで生じた不具合については、弊社では責任を負いかねます。

重要

各部には、ボルト止めが多く使われております。使用初期はボルト、ナットなどの緩みが出る場合がありますので、必ず増し締めを行ってください。

7-1. 標準締め付けトルク

特別指示のないボルト、ナットは、適切な工具により適正な締め付けトルクで締め付けてください。

締め付けが強すぎると「ねじ」は緩んだり、破損したりします。

締め付け強さは、ねじの種類、強度、ねじ面や座面の摩擦などで決めております。

一覧表は、亜鉛メッキまたはパーカー処理したボルトを対象としております。めねじの強度が弱い場合は適用できません。

さびていたり、砂などが付着している「ねじ」は、使用しないでください。

所定の締め付けトルクを与えても締め付け不足になります。

ねじ面の摩擦が大きくなり、締め付けトルクのほとんどを摩擦損失し、締め付ける力になりません。


「ねじ」が水や油で濡れている場合は、通常の締め付けトルクで締めないでください。ねじが濡れるとトルク係数が小さくなり、締め過ぎになります。

締め過ぎると、ねじが伸びて緩んだり、破損することがあります。

一度、大きな負荷がかかったボルトは、使用しないでください。

インパクトレンチで締めるときは、熟練が必要です。

できるだけ安定した締め付け作業ができるように練習してください。

呼び径	一般ボルト 強度区分 4.8		
			
	N-m	kgf-cm	lb-in
M5	3 - 5	30.59 - 50.99	26.55 - 44.26
M6	7 - 9	71.38 - 91.77	61.96 - 79.66
M8	14 - 19	142.76 - 193.74	123.91 - 168.17
M10	29 - 38	295.71 - 387.49	256.68 - 336.34
M12	52 - 67	530.24 - 683.20	460.25 - 593.02
M14	70 - 94	713.79 - 958.52	619.57 - 831.99
M16	88 - 112	897.34 - 1142.06	778.89 - 991.31
M18	116 - 144	1,182.85 - 1,468.37	1,026.72 - 1,274.54
M20	147 - 183	1,498.96 - 1,866.05	1,301.10 - 1,619.73
M22	295	3,008.12	2,611.05
M24	370	3,772.89	3,274.87
M27	550	5,608.35	4,868.05
M30	740	7,545.78	6,549.74

呼び径	調質ボルト					
	強度区分 8.8			強度区分 10.9		
						
	N-m	kgf-cm	lb-in	N-m	kgf-cm	lb-in
M5	5 - 7	50.99 - 71.38	44.26 - 61.96	7 - 10	71.38 - 101.97	61.96 - 88.51
M6	8 - 11	81.58 - 112.17	70.81 - 97.36	14 - 18	142.76 - 183.55	123.91 - 159.32
M8	23 - 29	234.53 - 295.71	203.57 - 256.68	28 - 38	285.52 - 387.49	247.83 - 336.34
M10	45 - 57	458.87 - 581.23	398.30 - 504.51	58 - 76	591.43 - 774.97	513.36 - 672.68
M12	67 - 85	683.20 - 866.75	593.02 - 752.34	104 - 134	1,060.49 - 1,366.40	920.50 - 1186.03
M14	106 - 134	1,080.88 - 1,366.40	938.21 - 1,186.03	140 - 188	1,427.58 - 1,917.04	1,239.14 - 1,663.99
M16	152 - 188	1,549.94 - 1,917.04	1,345.35 - 1,663.99	210 - 260	2,141.37 - 2,651.22	1,858.71 - 2,301.26
M18	200 - 240	2,039.40 - 2,447.28	1,770.20 - 2,124.24	280 - 340	2,855.16 - 3,466.98	2,478.28 - 3,009.34
M20	245 - 295	2,498.27 - 3,008.12	2,168.50 - 2,611.05	370 - 450	3,772.89 - 4,588.65	3,274.87 - 3,982.95
M22	-	-	-	530	5,404.41	4,691.03
M24	-	-	-	670	6,831.99	5,930.17
M27	-	-	-	1,000	10,197.00	8,851.00
M30	-	-	-	1,340	14,628.78	11,860.34

7-2. 機種別締め付けトルク

FS1700

次のボルト、ナットは下記のトルクで締め付けてください。

ねじ緩み止め剤は、ネジロック中強度（スリーボンド 1322 相当品 嫌気性封着剤）を塗布してください。

部位		コード番号	品名	締め付けトルク			ねじ緩み止め剤
				N-m	kgf-cm	lb-in	
前輪	モーター	K0010140601	14 調質ボルト 60	100	1,019.70	885.10	
	ホイール取付座		油圧モーター付溝付ナット (1・1/4-18UNF)	400 - 430	4,078.80 - 4,384.71	3,540.40 - 3,805.93	
	ホイール	K0011140352	14 調質ボルト 35P1.5	106 - 134	1,080.88 - 1,366.39	938.20 - 1,186.03	
後輪	モーター	K0010140601	14 調質ボルト 60	100	1,019.70	885.10	
	ホイール取付座		油圧モーター付溝付ナット (1・1/4-18UNF)	400 - 430	4,078.80 - 4,384.71	3,540.40 - 3,805.93	
	ホイール	K0034120352	12 調質ボルト 35P1.5	67 - 85	689.19 - 866.74	593.01 - 752.33	
タイロッド		K1610000020	タイロッドエンド右 Ass'y	45	458.86	398.29	
		K1611000020	タイロッドエンド左 Ass'y	45	458.86	398.29	
キングピンストッパー		K0011160902	16 調質ボルト 90P1.5	88 - 112	897.33 - 1,142.06	778.88 - 991.31	
ピストンポンプ		K0010120502	12 調質ボルト 50	67 - 134	683.19 - 1,366.39	593.01 - 1,186.03	
フレーム部Bサブフレーム		K0010140702	14 調質ボルト 70	70 - 94	713.79 - 958.51	619.57 - 831.99	
		K0010160952	16 調質ボルト 95	88 - 112	897.33 - 1,142.06	778.88 - 991.31	
ペダル部トラニオンレバー		K0010060202	6 調質ボルト 20	14 - 18	142.75 - 183.54	123.91 - 159.31	○
ブラシ部A		K0010140302	14 調質ボルト 30	70 - 94	713.79 - 958.51	619.57 - 831.99	
		K0010140802	14 調質ボルト 80	70 - 94	713.79 - 958.51	619.57 - 831.99	
エンジン		K0012120352	12 調質ボルト 35P1.25	67 - 134	683.19 - 1,366.39	593.01 - 1,186.03	
		K0011100302	10 調質ボルト 30P1.25	45 - 76	458.86 - 774.97	398.29 - 672.67	
		K0013121102	12 調質ボルト 110	67 - 134	683.19 - 1,366.39	593.01 - 1,186.03	
		K3680000030	M3.5 ねじ (付属部品)	0.78 - 1.18	7.95 - 12.03	6.90 - 10.44	
カップリング		K001A100401	10 六角穴付ボルト 40	80	815.76	708.08	
		K0011100302	10 調質ボルト 30P1.25	45 - 76	458.86 - 774.97	398.29 - 672.67	
		K0011100252	10 調質ボルト 25P1.25	45 - 76	458.86 - 774.97	398.29 - 672.67	
		K0013100402	10 調質ボルト 40	45 - 76	458.86 - 774.97	398.29 - 672.67	

8. 使用前の調整

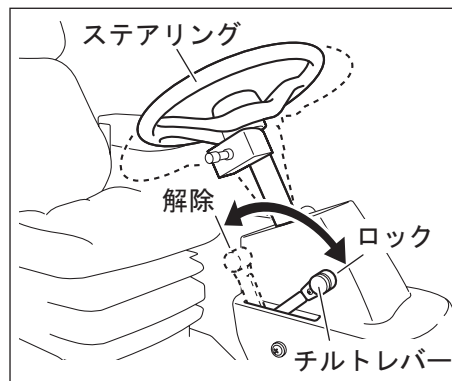
8-1. ハンドルの調整

警告 走行中は危険なため、調整しないでください。

注意 ロックは確実に行ってください。走行中に緩むと思わぬ事故を起こすおそれがあります。

ステアリングの角度を調整することができます。

チルトレバーを手前に引くとロックが解除され、ステアリングの調整ができます。ステアリング角度を決めてチルトレバーを前方に押しして再度ロックしてください。



8-2. シートの調整

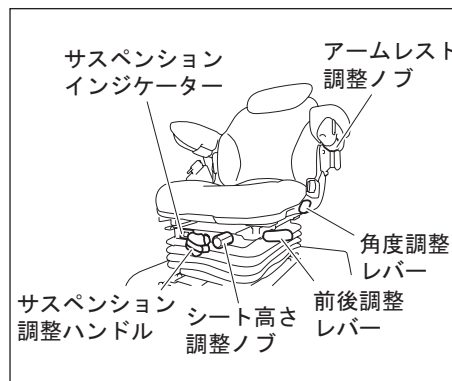
シートは、調整レバーで調整できます。オペレーターの体に合わせて調整してください。

- 前後調整レバーで、シートを前後に調整できます。
- 角度調整レバーで、背もたれの角度調整ができます。
- サスペンション調整ハンドルを回すことにより、シートのサスペンションの固さを調整できます。

サスペンションインジケータを目安にしながら調整してください。

[45 - 130 kg (99.2 - 286.6 lb)]

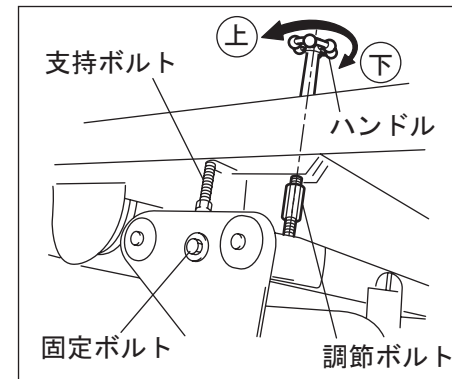
- アームレスト調整ノブを回すことにより、アームレストの角度が調整できます。
- シート高さ調整ノブを回すことにより、シートの高さを無段階で調整できます。
[0 - 60 mm (0 - 2.36 in)]



8-3. ブラシ高さ調整

ブラシの高さは、作業上の状況に合わせて、調整してください。

- ① 機械を水平な場所に移動し、駐車ブレーキをかけてエンジンを停止します。
- ② ブラシを下げ、固定ボルトを緩め、左右のハンドル（調節ボルト）を回し、地面とブラシのすき間を調整します。
参考：支持ボルトを左右の高さの目安にしてください。



- ③ 調整後固定ボルトを確実に締め、支持ボルトをブラケットに当て固定します。

9. エンジン始動・停止



9-1. エンジン始動上の注意



エンジン運転中はファンベルト、プーリーなどの回転部には触れないでください。



機械の周囲に人や障害物がないか安全を確認してください。



適切な換気装置のない建物内では始動しないでください。

重要

カバー類が正しい位置にあって、損傷していないか確認してください。

9-2. エンジン始動手順



エンジンを始動する前に機械や周囲に人や障害物が無いことを確認してください。

重要

スターターの操作は、最長 15 秒です。
始動しないときは、30 - 60 秒バッテリーを休止させ、消耗を防いでください。

1. 運転席に着座します。
2. 駐車ブレーキがかかっていることを確認してください。
3. ブラシ回転スイッチが「停止」の位置になっていることを確認してください。
4. 走行ペダルが中立になっていることを確認してください。
5. スロットルレバーを「低速」側から半分程度「高速」側へ動かします。

重要

サーモスタートランプは、設定時間後に消灯しますが、ランプの消灯とグロープラグの発熱は関連がありません。
ランプ消灯後もキーが「グロー」の位置であれば発熱しています。
ランプの点灯時間は 5 秒です。

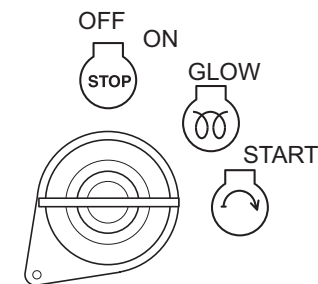
6. エンジンキーを「グロー」の位置にします。

7. グロープラグが発熱し、サーモスタートランプが点灯したことを確認してください。

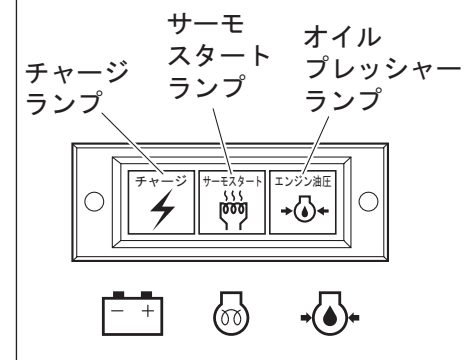
重要

エンジンキーを「START」位置から、「ON」の位置へ急激に戻すと、機器の損傷につながります。

8. サーモスタートランプが消えたら、速やかにエンジンキーを「START」の位置にします。
9. スターターが回転し、エンジンが始動したらエンジンキーを「ON」の位置へゆっくりと戻します。



10. チャージランプとエンジン油圧ランプが消えることを確認してください。
消えない場合は、エンジンを停止し、点検整備を行ってください。



11. スロットルレバーを「低速」側にして 1 - 2 分間、暖気運転します。
12. スロットルレバーを徐々に「高速」側へ動かします。

9-3. エンジン停止手順

1. 走行ペダルを中立にします。
2. 駐車ブレーキをかけます。
3. ブラシ回転スイッチを「停止」の位置にします。
4. スロットルレバーを「低速」側にして1 - 2分間、空運転します。
5. エンジンキーを「OFF」の位置にします。
6. エンジンが停止したことを確認してください。
7. エンジンキーを抜き取ります。
8. 運転席から降ります。

9-4. 安全装置について

この機械には、エンジン始動・停止に対する安全装置が装着されています。

1. エンジンを始動するときは、以下の4つの条件が1つでも満たされていないと安全装置が働き、エンジンは始動しません。
 - ・シートに着座する。
 - ・駐車ブレーキをかける。
 - ・ブラシ回転スイッチを「停止」の位置にする。
 - ・走行ペダルの位置を中立にする。
2. 駐車ブレーキをかけた状態で、エンジンをかけたままで運転席から離れるとき、以下の条件の場合は、安全装置が働き、エンジンが停止します。
 - ・走行ペダルの位置が中立でない。（走行ペダルを踏んだ場合）
 - ・ブラシ回転スイッチが「回転」位置にある。

安全装置動作条件

安全装置動作項目	シート	駐車ブレーキスイッチ	ブラシ回転スイッチ	走行ペダル
① エンジン始動	座る	ロック	停止	中立
② エンジン停止	離れる	解除	—	—
③ エンジン停止	離れる	ロック	回転	—
④ エンジン停止	離れる	ロック	—	踏む

10. 各部の操作方法

10-1. 機械操作上の注意



機械を操作する前に、各 부품の操作状態が良好であり、特にブレーキ、タイヤ、ステアリングに異常が無いを確認してください。



どのような場合にも、緊急停止ができるような速さで運転してください。



作業地域内の障害物は取り払い、運転者あるいは周囲の人がケガをしないようにしてください。

10-2. 機械を離れるときの注意



傾斜地では絶対に駐車しないでください。



ブレーキの効きが悪いときは、車輪止めを使用し、固定してください。

- ① 機械を平らな場所に停車し、駐車ブレーキをかけます。
- ② ブラシの回転を止め、作業機・バケットを完全に下ろしてください。
- ③ エンジンを停止します。
- ④ キーを抜いてから離れてください。

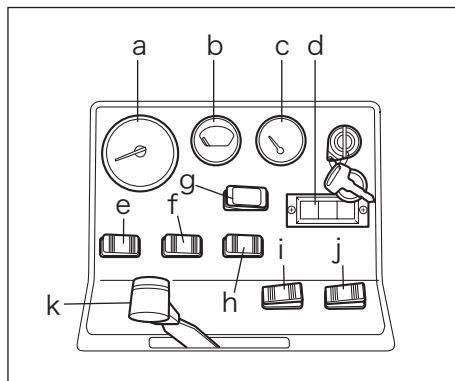
10-3. 操作ボックス



操作ボックスを操作する前に機械や周囲に人や障害物が無いことを確認してください。

● 操作ボックスは座席の右側にあります。

- a. タコメーター・アワメーター
- b. 水温計
- c. 燃料計
- d. パイロットランプ
- e. ブラシ回転スイッチ
- f. 2WD・4WD切り替えスイッチ
- g. 駐車ブレーキスイッチ
- h. デフロックスイッチ
- i. ブザーON・OFFスイッチ
- j. ブザー切り替えスイッチ
- k. スロットルレバー



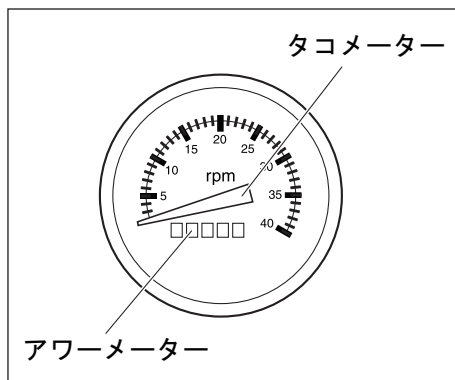
10-4. タコメーター・アワメーター

タコメーターは、エンジンの回転速度を表示します。

エンジンフライホイール部の回転センサーと接続されており、回転センサーから出力された信号を回転数で表示します。

アワメーターは、エンジンの総運転時間を表示します。

6分経過ごとに一目盛（白地に黒数字）上がり、一時間経過ごとに次の目盛（黒字に白数字）が一目盛上がります。



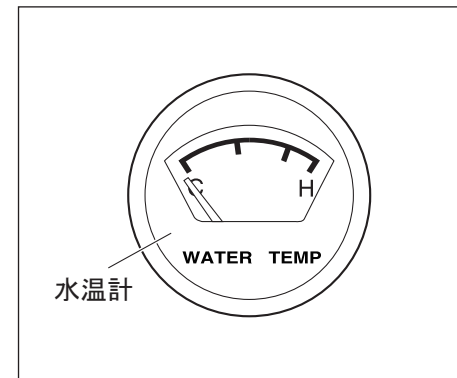
10-5. 水温計

エンジン内部の水温を示す計器です。

運転中に水温計が「H」付近まで上昇した場合は、オーバーヒート状態です。

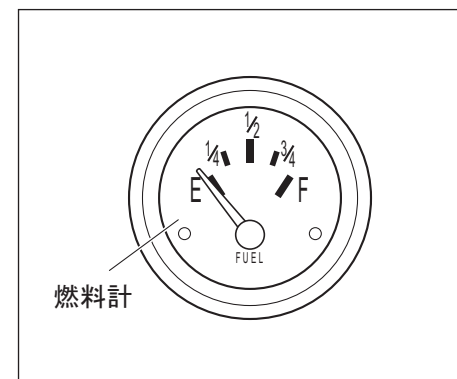
エンジンを無負荷にし、アイドリング状態で5分間運転した後、エンジンを停止して点検・整備をしてください。

水温が115 °Cを超えると、ブザーが鳴ります。（断続音）



10-6. 燃料計

燃料タンク内の燃料の量を示す計器です。

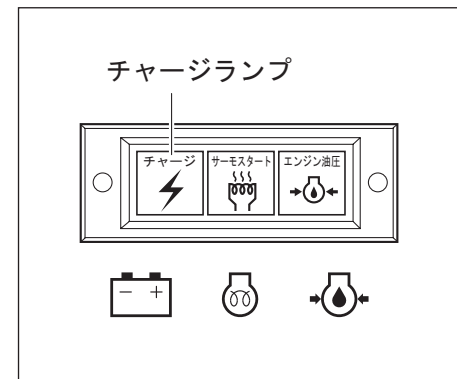


10-7. パイロットランプ

チャージランプ

エンジン始動前にエンジンキーの位置「ON」で点灯し、始動後にオルタネーターが正常に運転されると消灯します。

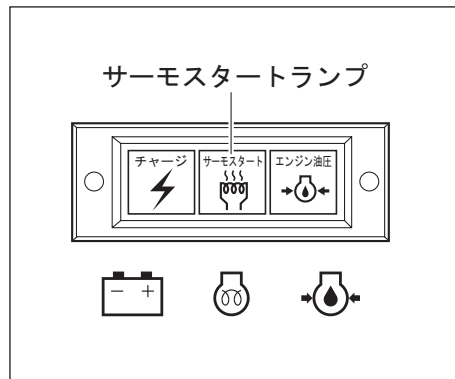
運転中に点灯した場合は、すぐにエンジンを停止し、点検・整備してください。



サーモスタートランプ

エンジンキーの位置が「グロー」のとき、グロープラグの発熱と同時に点灯します。グローランプタイマーにより、サーモスタートランプの点灯が制御され、設定時間経過後に消灯します。

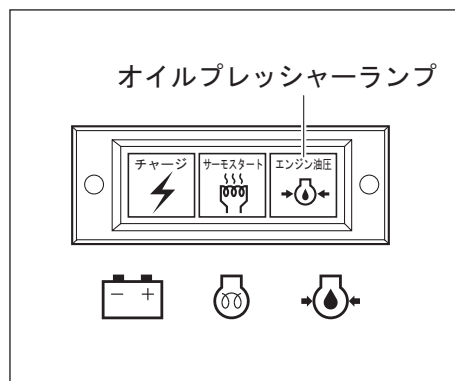
点灯時間は、予熱に必要な目安であり、一定時間（5秒）の設定です。



オイルプレッシャーランプ

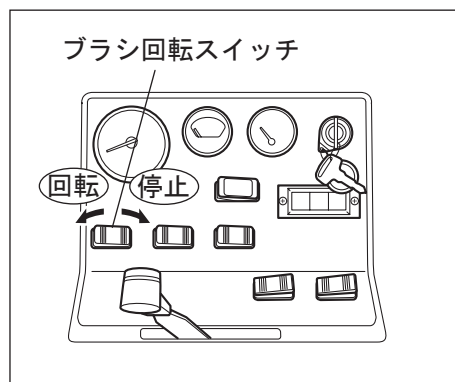
エンジン始動前にエンジンキーの位置「ON」で点灯し、始動後にエンジン油圧（オイルプレッシャー）が正常に発生すると消灯します。

運転中に点灯した場合は、すぐにエンジンを停止し、点検・整備してください。



10-8. ブラシ回転スイッチ

ブラシは、ブラシ回転スイッチを「回転」にすると回転し、「停止」にすると停止します。

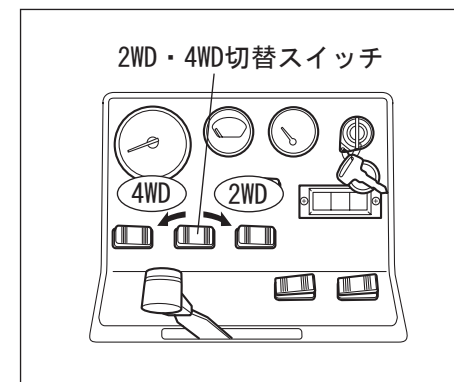


10-9. 2WD - 4WD 切り替えスイッチ

注意 傾斜地では、必ず 4WD を使用してください。

重要 2WD - 4WD の切り替えは、ペダルが中立の位置にないと切り替わりません。
2WD - 4WD の切り替えは、停止して行ってください。

スイッチを「2WD」側に押すと 2 輪駆動（前輪駆動）、「4WD」側に押すと 4 輪駆動になります。

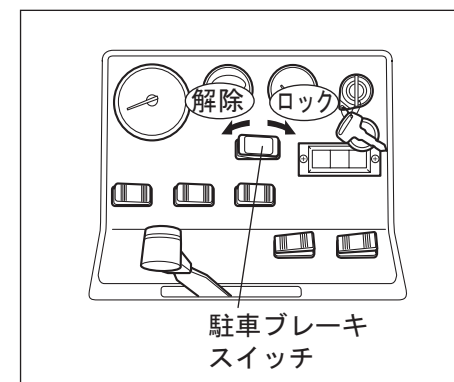


10-10. 駐車ブレーキスイッチ

注意 傾斜地での駐車は、絶対にしないでください。

重要 走行する際は、必ず駐車ブレーキを解除してから走行してください。ブレーキや油圧機器の故障を起こすおそれがあります。

駐車ブレーキスイッチは、操作ボックス内の中央部にあります。
駐車時は「ロック」にしてください。



10-11. デフロックスイッチ

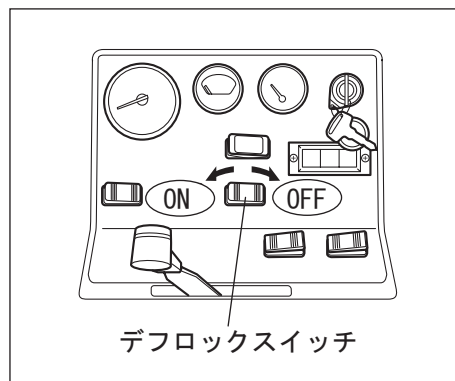
重要 デフロックスイッチの操作は、必要なとき以外は絶対に行わないでください。

重要

デフロックスイッチをかけたまま回転すると芝生を傷める場合がありますので、回転時は「OFF」にしてください。

スイッチを「ON」側に押し、前輪がデフロックスイッチ状態になります。

ぬかるみにはまって4駆にしても車輪が空転してしまった場合に使用します。デフロックスイッチは4駆時のみに作動します。

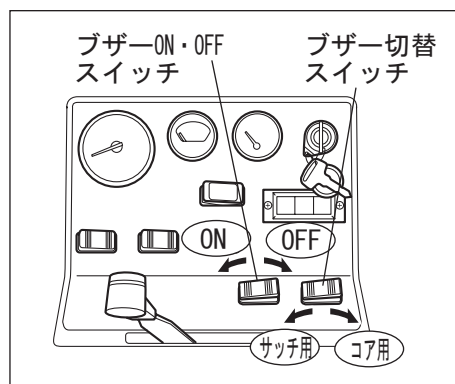


10-12. ブザー ON・OFF スイッチ

バケット満量ブザーは、コア用とサッチ用の2つあります。

ブザー ON・OFF スイッチを「ON」側に設定しているとバケット内部の回収量が満量になった場合にブザーが鳴ります。

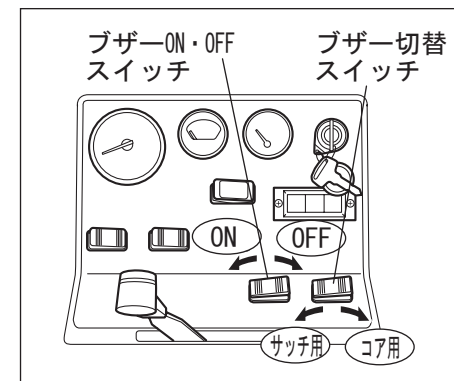
ブザー ON・OFF スイッチは、回収作業時には必ず「ON」にしてください。



10-13. ブザー切り替えスイッチ

バケット満量ブザーは、コア用とサッチ用の2つあります。

ブザー切り替えスイッチは「サッチ用」側と「コア用」側のバケット内部の回収量が満量になったことを感知するセンサーを切り替えることができます。



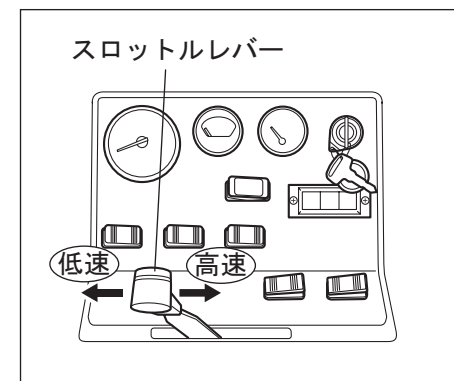
10-14. スロットルレバー

スロットルレバーは、エンジン回転速度の高低をレバーで調整します。

スロットルレバーは、「高速」側にするとエンジン回転速度が高くなり、「低速」側にするとエンジン回転速度が低くなります。

参考：

出荷時のエンジン最高回転速度は、2,400 rpm に設定してあります。



10-15. ブラシ上下レバー

重要

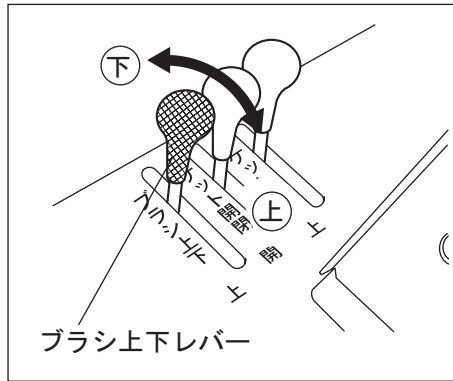
ブラシを回転させた状態で、下ろしたまま機械を停車すると、芝生を傷める場合があります。

走行しながらブラシの上下を行ってください。

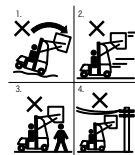
重要

回収作業中、ブラシの上下を行う場合、ブラシの回転を停止しないでください。停止させるとぼた落ちする場合があります。

- ① ブラシ上下レバーを「上」側へ倒すと、ブラシは上へ上がり、手を離すと停止します。「下」側に倒すとレバーは保持され、ブラシは下がり、フリーの状態になります。レバーを中立に戻すとブラシは保持され、停止します。



- ② 回収作業中は、地面のアンジュレーションに対応させるため、ブラシ上下レバーは「下」側へ倒した状態で行ってください。旋回時はブラシ上下レバーを「上」側へ倒し、ブラシを上げてください。



10-16. バケット上下レバー

注意

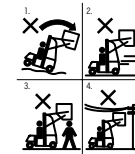
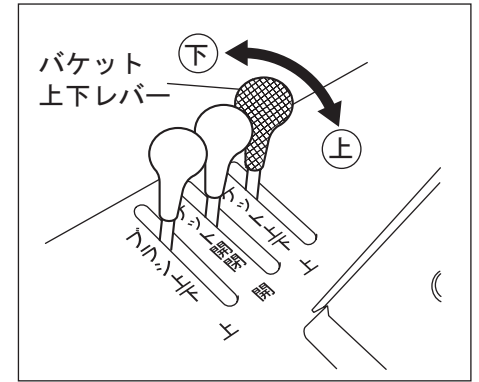
バケットの上げ下げはシートに着座して行ってください。

注意

バケットを上げ下げするときは、急な操作を行わないでください。

バケット上下レバーは、回収した物をトラックなどに捨てる際に使用します。

- ① バケット上下レバーを「上」側へ倒すと、バケットは上がります。バケットが上限まで上がり、止まった位置でレバーから手を離します。
- ② バケット上下レバーを「下」側へ倒すと、バケットは下がります。バケットが下限まで下がり、止まった位置でレバーから手を離します。



10-17. バケット開閉レバー

重要

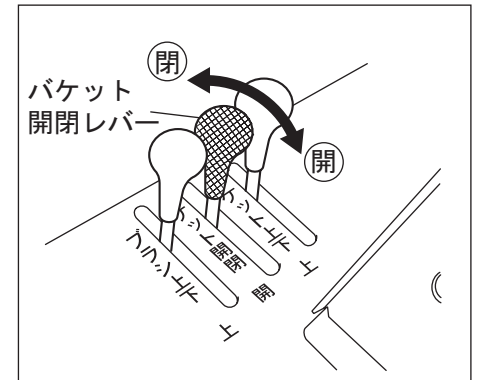
バケットフタを閉じるときは、バケット開閉レバーを「閉」側に倒し、そのままの位置で2 - 3秒程度レバーから手を放さないようにしてください。すぐにレバーから手を放すと、バケットフタが開いてしまうおそれがあります。

重要

排出前にバケットフタがしっかりと閉められていないと、コアなど捨得物がこぼれてしまうおそれがあります。

バケット開閉レバーは、回収した物をバケットから捨てる際に使用します。

- ① バケット開閉レバーを「開」側へ倒すと、バケットが開きます。バケットが開いたら、レバーから手を離してください。
- ② バケット開閉レバーを「閉」側へ倒すと、バケットが閉じます。バケットが閉じたら、レバーから手を離してください。



10-18. 前進・後進ペダル

▲注意 後進するときは後方の安全を十分確認してください。

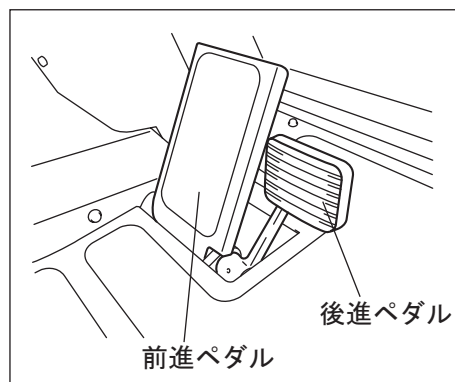
重要

ターフタイヤは通常のタイヤより空気圧が低いため、旋回時は十分に走行速さを落としてください。

サイドウォールを痛め、バーストするおそれがあります。

前進ペダルを踏むと前進し、後進ペダルを踏むと後進します。

凹凸面の回収作業は、作業速さを遅くして行います。ただし、エンジン回転は一定のまま走行速さを遅くします。

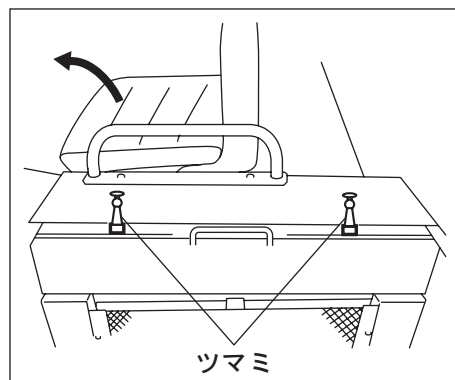


10-19. ボンネット

▲注意 ボンネットを閉めるときに手を挟まないように注意してください。



ボンネットの開け閉めは、ツマミを外してから、シートを上げてください。



11. 移動

▲警告 バケットを上げた状態で移動しないでください。

▲注意 どのような場合にも、緊急停止ができる速さで運転してください。

- ① エンジンを始動する前に、以下のことを確認してください。
 - ・シートに着座していること。
 - ・駐車ブレーキがかかっていること。
 - ・走行ペダルの位置が中立であること。
- ② エンジンを始動します。
- ③ ブラシフレームを上げます。
- ④ 駐車ブレーキを解除します。
- ⑤ 前進ペダルをゆっくりと踏み込んでください。
- ⑥ 機械は走行を始めます。

12. けん引



警告 作業順序は必ず守ってください。地形によっては機械が動くことがあります。



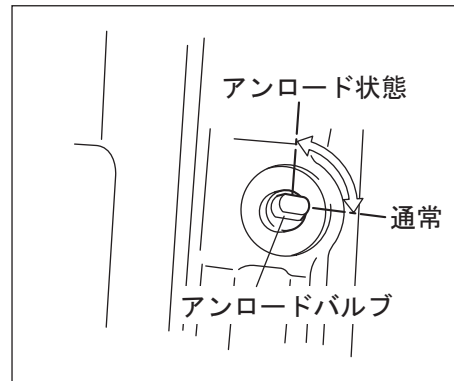
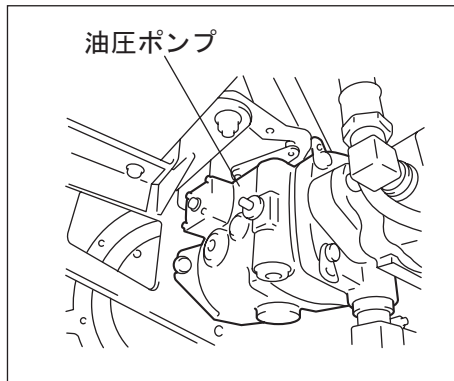
注意 けん引は、低速で十分注意して行ってください。



注意 エンジンを停止した状態で作業を行ってください。また、作業終了後エンジンを始動する場合は必ず逆の手順で元の状態に戻してください。特にハンドポンプを作動させた状態でエンジンを始動するとハンドポンプの故障の原因となります。

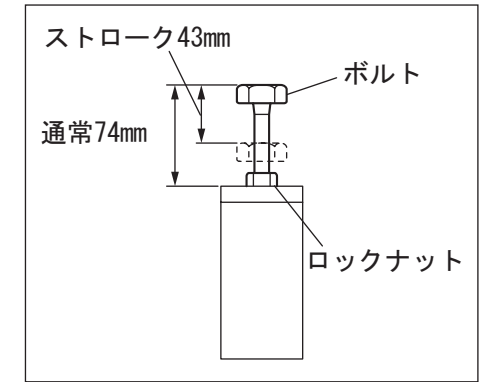
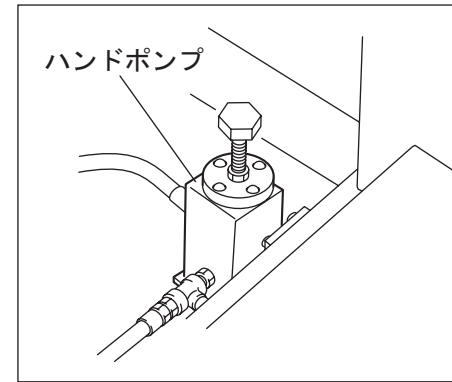
エンジントラブルなどで自走できなくなった場合は、以下の方法で移動できます。

- ① エンジンを停止します。
- ② 車輪止めをしてください。
- ③ 油圧ポンプの下側にあるアンロードバルブを 90 度回転させます。（ポンプのアンロード）



- ④ この機械の駐車ブレーキは油圧モーターに内蔵されたブレーキを使用しているため、ブレーキを解除します。

ハンドポンプのロックナットを緩めボルトをねじ込みます。



13. 作業

13-1. 傾斜地作業について

▲注意 15度以上の傾斜地でのご使用の際は、下記事項を必ず守ってください。
なお、地面は平坦でなく、凹凸や石などがあり機械の傾斜角度が急に大きくなる場合が考えられますので、使用最大傾斜角度は20度とします。

傾斜地作業を行うときは、以下のことに注意をして作業を行ってください。

- 転倒やスリップの危険がある場所では、絶対に機械を運転しないでください。
- 傾斜地では、作業前に穴、岩石、木の根（その他の不法投棄物）などを取り除き、それらがいないことを確認してから十分気を付けて作業してください。
- 傾斜地での作業は、等高線に沿って行い、旋回は傾斜角度の緩い所で行ってください。
- 20度以上の急傾斜地での作業は、横転の危険が非常に高いので使用しないでください。

13-2. 回収操作

▲警告 急発進・急停車は、絶対に行わないでください。

▲注意 バケットフタが閉じていることを確認してください。

▲注意 作業は、必ず場所にあった速さで行ってください。
凹凸面の作業は、エンジン回転は一定のまま、速さを遅くして行ってください。

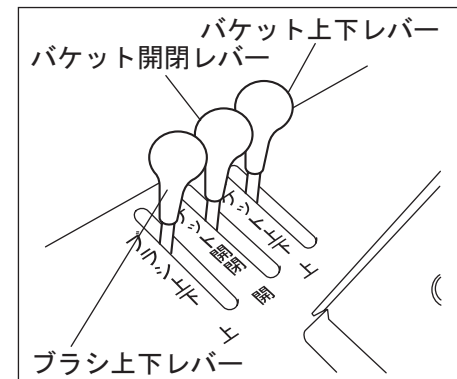
▲注意 作業を始める前に、作業予定区域の安全確認を必ず行ってください。

- ① エンジンを始動する前に、以下のことを確認してください。
 - ・シートに着座していること。
 - ・駐車ブレーキがかかっていること。
 - ・走行ペダルの位置が中立であること。
- ② エンジンを始動します。
- ③ ブラシフレームを上げてください。

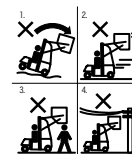
- ④ スロットルレバーを「高速」側にし、エンジン回転速度を2,000～2,200 rpmに設定してください。
- ⑤ ブザーON・OFFスイッチを「ON」に切り替えます。

▲注意 芝生面で作業する場合、停車中にブラシを回転させてブラシフレームを下げた状態のまま停車すると、ブラシが当たり続けて芝生が傷みますので注意してください。

- ⑥ ブラシ回転スイッチを「回転」側に倒し、ブラシを回転させます。
- ⑦ 駐車ブレーキを解除してください。
- ⑧ 前進ペダルを踏み、走行します。
- ⑨ 作業開始場所で、ブラシ上下レバーを「下」側に倒します。
- ⑩ 作業終了場所で、ブラシ上下レバーを「上」側に倒します。
- ⑪ 手順① - ⑩を繰り返し、回収作業を行ってください。
- ⑫ 回収作業終了後、ブラシ回転スイッチを「停止」側に倒し、ブラシを停止してください。



13-3. 排出操作



▲危険 崖などの危険な場所では、ハイダンプ作業を行わないでください。

▲警告 軟弱地・不整地や傾斜地でのハイダンプ（排出作業）は、車体のバランスが崩れて危険です。絶対に行わないでください。

▲警告 前輪タイヤが直進状態になっていないと、車体のバランスが崩れて危険です。絶対に行わないでください。

▲注意 バケツ満量警告ブザーが鳴った場合は、速やかに回収作業を中止してください。

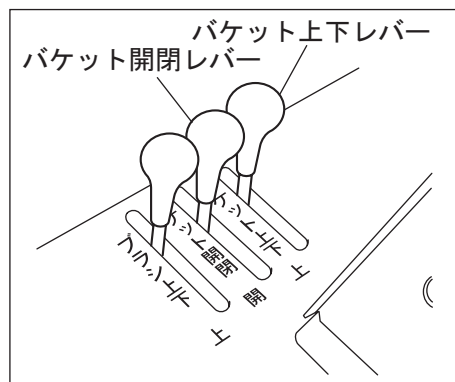
▲注意 バケツフタを開閉するときは、周囲に人がいないことを確認してください。

▲注意 バケツフタを開閉するときは、急な操作を行わないでください。

重要

バケツフタを閉じるときは、バケツ開閉レバーを「閉」側に倒し、そのままの位置で2 - 3秒程度レバーから手を放さないようにしてください。すぐにレバーから手を放すと、バケツフタが開いてしまうおそれがあります。

- ① 排出場所まで移動して、車体を直進状態で停車します。
- ② バケツ上下レバーを「上」側へ倒し、バケツを上げます。
バケツが上限まで上がり、止まった位置でレバーから手を離してください。
- ③ ゆっくりと排出位置まで後進します。
- ④ 駐車ブレーキをかけます。
- ⑤ バケツ開閉レバーを「開」側へ倒し、バケツを開きます。
バケツが開いたら、レバーから手を離してください。
- ⑥ 回収物を排出したことを確認します。
- ⑦ バケツ開閉レバーを「閉」側へ倒し、バケツを閉じます。
- ⑧ 駐車ブレーキを解除します。
- ⑨ バケツを下ろせる位置までゆっくりと前進します。
- ⑩ バケツ上下レバーを「下」側へ倒し、バケツを下げます。
バケツが下限まで下がり、止まった位置でレバーから手を離してください。



14. 長期保管

- 泥や草屑、油汚れなどをきれいに落としてください。
- 各注油箇所にグリース注入、塗布と、注油をしてください。
- バッテリーのマイナス配線を取り外してください。
- 燃料抜き取り
燃料タンク内の燃料を抜き取ってください。
- 清掃、オイル交換
車両本体およびエンジンなどをきれいにし、エンジンオイル、エアクリーナーオイル、エレメントの点検交換をしてください。
- 注油
各部の摺動部に注油してください。
- バッテリー
バッテリーを機械から取り外し、充電してから風通しの良い室内に保管してください。
- タイヤの空気圧
標準よりやや高めにし、湿気から守るために板の上に乗せてください。
- 格納場所
雨のかからない乾燥した場所で、カバーなどをかけてください。

メンテナンス

15. メンテナンス上の注意

▲注意 実施するメンテナンスを熟知してから行ってください。

重要 メンテナンスを行う際に必要な工具は、目的にあったものを使用してください。

重要 常に安全に、最高の性能でお使い頂くために、交換部品やアクセサリは BARONESS 純正部品をお求めください。
純正部品以外の部品をご使用になった場合、製品保証を受けられなくなる場合がありますので、ご注意ください。

15-1. メンテナンスの注意事項



▲注意 メンテナンスを行うときは、以下のことに注意をして作業を行ってください。

- 実施するメンテナンスを熟知してから行ってください。
- メンテナンスは平坦で乾燥したきれいな場所で行ってください。
- 機械の作動中は、給油やメンテナンスをしないでください。
- 駆動・作動部分には、手足を近づけないでください。駆動・作動部分のメンテナンスは、手足が巻き込まれないように十分注意して行ってください。
- すべての駆動を断ち各コントロールを操作して圧力を解除してください。
- すべての部品は、良い状態で正しく取り付けてください。
- バケットなどの機体を上げたまま作業するときは、安全で確実なサポートをしてください。
- 損傷部品は直ちに修理または交換してください。
- 磨耗損傷部品は、必ず交換してください。
- 機械の改造はしないでください。整備上の必要部品は、安全確保のために純正部品を使用してください。
- ゴミやグリース、オイルの付着は取り除いてください。
- 電気システムのメンテナンスをする前には、必ずバッテリーのマイナス（-）配線を外してください。

15-2. 高圧オイルによる被害の防止



▲警告 高圧オイルによる被害の防止のために、以下のことに注意してください。

- 高圧オイルが皮膚に吹き付けられると重大な損傷が起きます。
- 高圧ライン・ホース・継ぎ手を外す前に圧力を逃がしてください。
- 運転を始める前にすべての継ぎ手の締め金具を確認してください。
- 漏れの点検には、小さな厚紙を使ってください。もし、高圧オイルが皮膚に吹き付けられたら 2～3 時間以内に必ず医師の手当を受けてください。

16. メンテナンススケジュール

FS1700

メンテナンススケジュールは、以下のとおりです。

	メンテナンス作業	使用前	50Hごと	100Hごと	200Hごと	500Hごと
エンジン	エンジンオイルの点検	○				
	エンジンオイルの交換		最初の50H ○	○		
	オイルフィルターの交換		最初の50H ○	○		
	ラジエーターとオイルクーラーの清掃	○				
	冷却水の点検	○				
	エアクリーナーの清掃	○				
	エアクリーナーエレメントの交換					○
	ファンベルトの点検	○				
	バッテリー液の点検			○*1		
	フューエルフィルターの洗浄			○		
車両本体	フューエルフィルターの交換					○
	タイヤの点検	○				
	燃料の点検	○				
	油圧作動油の点検	○				
	油圧作動油の交換			最初の100H ○		○
	オイルフィルターの交換			最初の100H ○		○
	各部の油漏れ	○				
	各部の緩み損傷点検	○				
	グリースアップ			○		
	ゴミなどの除去	○				

*1: バッテリー液の点検は、100 時間または 1 年のいずれか早い周期で点検してください。

上記以外のメンテナンススケジュールについては、エンジンの取扱説明書を参照ください。

消耗品については、保証値ではありません。

17. ジャッキアップ

17-1. ジャッキアップについて

▲警告

タイヤ交換などの整備や修理を行う場合は、必ず輪止めなどをして、機械が動かないようにしてください。

機械をコンクリートなどの堅い平らな床に確実に駐車し、機械をジャッキアップする前に安全作業の妨げになる障害物を取り除いてください。

ジャッキを使用し、持ち上げている機械は、ジャッキスタンドや適切なブロックを使用し、確実に支えてください。

ジャッキスタンドや適切なブロックで機械を確実に支えられていない場合は、機械が動いたり、落ちたりするおそれがあります。

人身事故の原因となります。

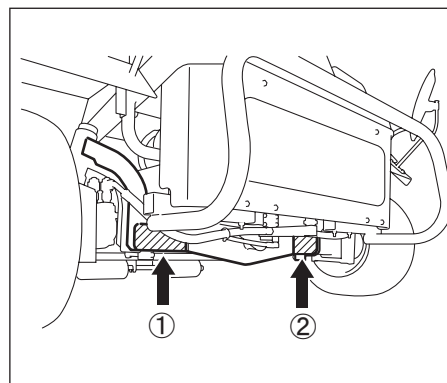
この機械をジャッキアップする場合は、「ジャッキアップポイント」に記載してある位置で行ってください。

指示された位置以外では、ジャッキアップしないでください。また、チェーンブロックやホイストは使用しないでください。

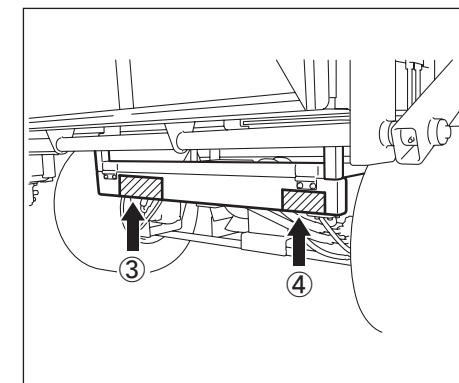
フレームや部品が破損するおそれがあります。

17-2. ジャッキアップポイント

<フロント>



<リヤ>



18. グリースアップ

18-1. グリースアップについて

可動部がグリース切れにより、固着したり、破損したりする可能性がありますので、グリースアップの必要性があります。

メンテナンススケジュールに従って、ウレア系2号グリースでグリースアップしてください。

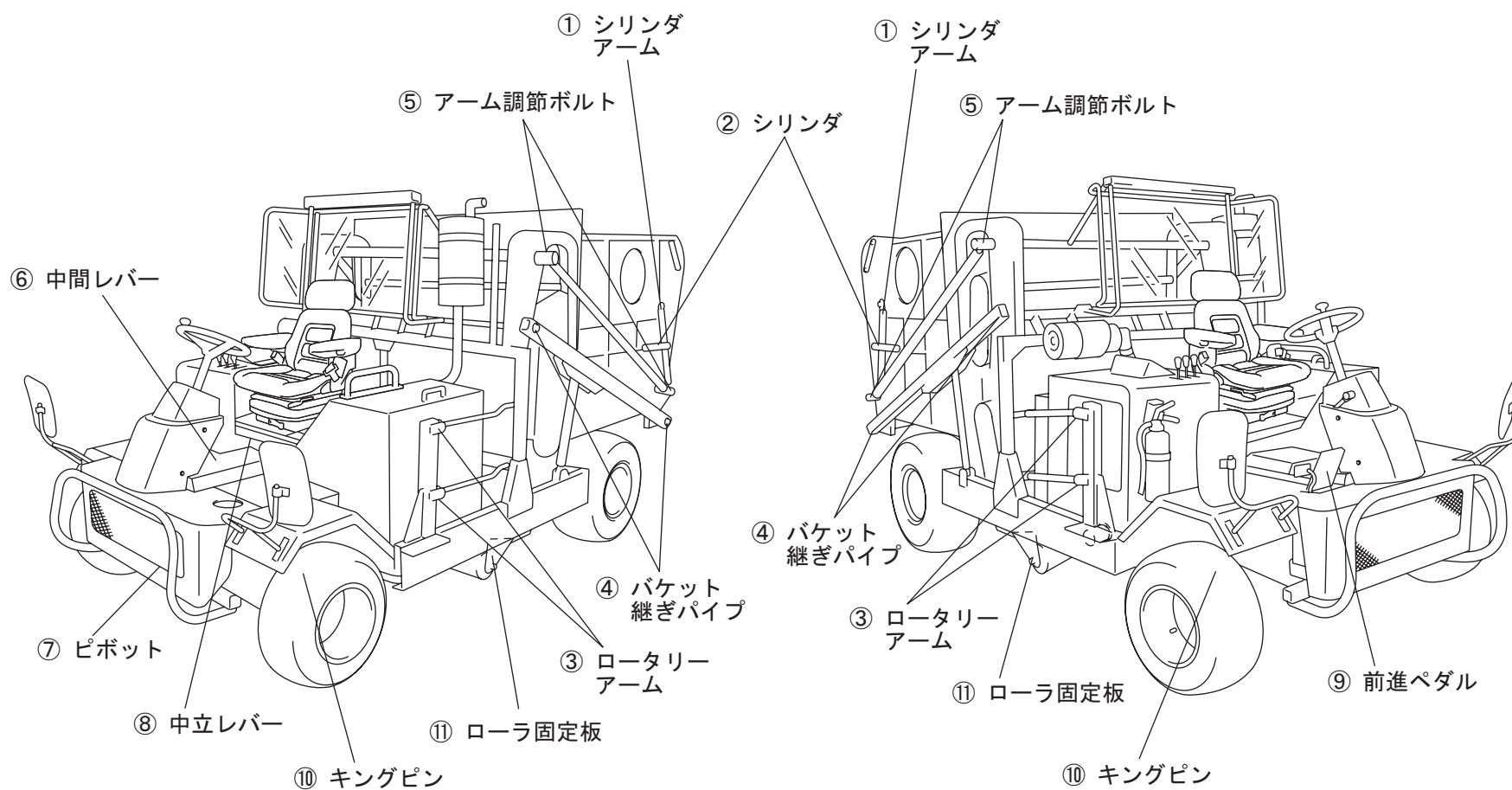
その他指定のグリース、潤滑油を使用する場合は、「グリースアップ位置」に記載されています。

指定のグリース、潤滑油でグリースアップしてください。

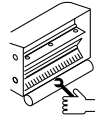
18-2. グリースアップ位置

次の場所にグリースニップルが取り付けられています。

50時間ごとにグリースアップしてください。



19. メンテナンスの方法



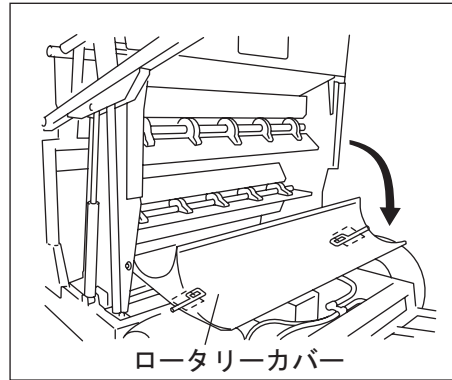
19-1. 作業部の清掃

重要

洗浄を怠ると、次回作業時に回収能力が落ちたり、各部の早期磨耗や高負荷による異常振動、故障を引き起こすおそれがあります。

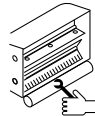
- ① 作業を行った後は、その日の内には必ず各部の水洗いによる洗浄をしっかりと行ってください。
- ② エンジン部、油圧部、バッテリーは水洗いせずに布、ブラシ、圧縮空気などで泥や埃を落としてください。
- ③ 洗浄後はしっかり乾燥させ、各摺動箇所には必ず、注油を行ってください。

洗浄箇所: ロータリー部内外、ブラシ、ロータリー板、前ローラー、バケット部内外、タイヤ、フレームなど



ロータリーカバー

19-2. ブラシの調整と交換



重要

ブラシの磨耗によって、ブラシの寸法調節が出来なくなった場合は、すべてのブラシを新品に交換してください。一部だけの交換は質量のバランスが崩れ、振動が発生し、故障の原因となります。

ブラシが磨耗して短くなった場合、調整または交換をしてください。

- ① 機械を水平な場所に移動し、ブラシを上げます。
- ② 駐車ブレーキをかけてエンジンを停止します。
- ③ ブラシを止めているボルトを緩め、ブラシフレームとブラシのすき間を約 5 mm (0.20 in) に調節し、仮締めします。
- ④ ブラシを手でゆっくり回し、再度確認してボルトを締めます。
- ⑤ 残りのブラシも同様に調節し、すべてのブラシが均一になるように締めます。

19-3. ロータリー板の調整と交換



重要

ロータリー板の磨耗によって、ロータリー板の寸法調節が出来なくなった場合は、すべてのロータリー板を新品に交換してください。一部だけの交換は、質量のバランスが崩れ、振動が発生し、故障の原因となります。

- ① 機械を水平な場所に移動し、ブラシを上げます。
- ② 駐車ブレーキをかけてエンジンを停止します。
- ③ カバーを開きます。
- ④ ロータリー板を止めているボルトを緩め、ロータリー板とブラシのすき間を約 5 mm (0.20 in) に調節し、仮締めします。
- ⑤ ロータリー板を手でゆっくり回し、再度確認してボルトを締めます。
- ⑥ 残りのロータリー板も同様に調節し、すべてのロータリー板が均一になるようにしてください。
- ⑦ カバーを閉じてロータリー板を手でゆっくり回し、再度確認してください。

19-4. 油圧作動油の交換

注意 熱いオイルが皮膚に付くと火傷をするおそれがありますので、十分注意してください。

重要 作動油を交換する場合は、作動油を容器で受け、地域の法律に従って適切に処分してください。

重要 作動油が乳化、または透明度が少しでも悪くなった場合は、直ちに交換してください。

重要 作動油は、シェルテラス S2M46（相当品）を使用してください。

① 以下の要領で、古い作動油を抜き取ってください。

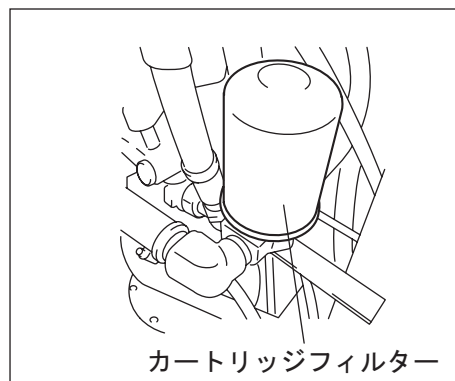
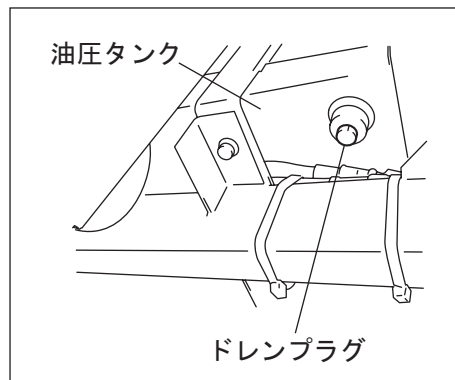
[1] エンジンを始動し、作動油を温めてください。

[2] 水平な場所で、ブラシフレームとバケットを下げ、エンジンを停止してください。

[3] 油圧タンクのドレンプラグを外し、古い作動油を容器に抜き取ってください。

[4] ドレンプラグに新しいシールテープを巻き直し、油圧タンクに再び取り付けてください。

② 油圧カートリッジフィルターも同時に交換してください。



③ タンクキャップを開け、注入口から新しい作動油を油面が油圧タンクの油量ゲージの中心になるまで入れてください。

油圧タンク容量は、約 62.0 dm³ (62.0 L) です。

④ タンクキャップを確実に閉めてください。

⑤ エンジンを始動し、ブラシフレームとバケットを上げ下ろしし、前後進を数度繰り返してください。

⑥ 水平な場所でブラシフレームとバケットを下げた状態で油面が、油量ゲージの中心にあるか確認し、必要があれば補給してください。

⑦ 機体の下を確認し、作動油漏れが無いことを確認してください。

19-5. エンジンオイルの交換

注意 熱いオイルが皮膚に付くと火傷をするおそれがありますので、十分注意してください。

重要 エンジンオイルを交換する場合は、エンジンオイルを容器で受け、地域の法律に従って適切に処分してください。

重要 エンジンオイルは、API サービス分類のCF級以上で、使用環境（気温）に合わせたSAE粘度のオイルを使用してください。

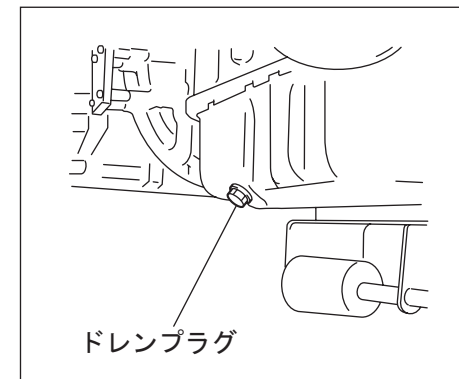
重要 オイルレベルゲージとオイルフィルターキャップは、確実にねじ込んでください。

エンジンオイルが汚れていたり、埃の多い環境で運転した場合や、エンジンを高負荷あるいは高温で運転した場合は、オイル交換の回数を増やしてください。

① 機械を平らな場所に移動させ、エンジンを停止します。

② エンジンオイルが温まっている間にドレンプラグを外し、エンジンオイルを容器に抜き取ります。

③ ドレンプラグをエンジンに再度取り付けます。

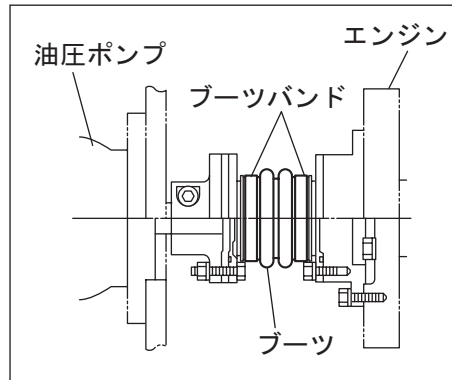


- ④ エンジンオイルフィルターも同時に交換してください。
- ⑤ オイルフィルターより、新しいエンジンオイルの油面がオイルレベルゲージの上
限と下限の間になるまで入れます。
エンジンオイル量は、約 9.7 dm³ (9.7 L) です。
- ⑥ オイルフィルターキャップを閉めてください。
- ⑦ 補給したエンジンオイルは、オイルパンに下がるまである程度時間を要します。
補給してから 10 - 20 分後にオイルの量を再点検してください。
- ⑧ 機械の下を確認し、油漏れが無いことを確認してください。

19-6. NTN 等速ジョイントの交換

重要 NTN等速ジョイント用グリースと他のグリースの混用は避けてください。

- ジョイント取り付け部あるいは、ブーツバンド取り付け部にグリースの漏れが発生した場合、パッキン、Oリングなどを交換してください。
- ブーツバンドの再使用は不可能なため新しいものを使用してください。



19-7. ヒューズボックス

警告

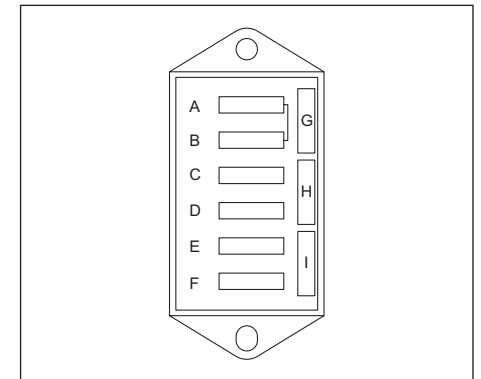
電気システムのメンテナンスを行う場合は、必ずバッテリーのマイナス配線を取り外してください。

重要

ヒューズが切れた場合は、電気回路内で短絡が生じている可能性があります。端子の接続不良、配線、端子の損傷、配線の組み間違いなど、原因を調べてください。

重要

ヒューズは、自動車ブレードヒューズです。規定容量のものと交換してください。



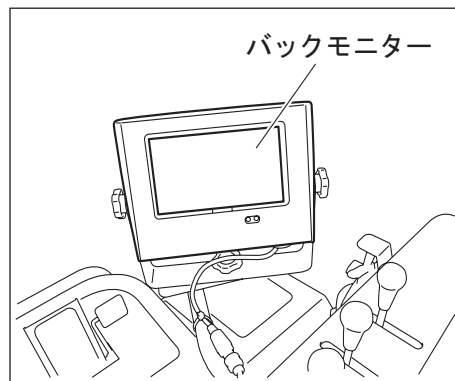
A	10 A	燃料ポンプ、オルターネーター
B	10 A	計器類、ブザー、セーフティリレー (操作)
C	10 A	グローリレー、タイマー
D	20 A	タイマー、セーフティリレー (燃料カット SOL)
E	10 A	操作 SW、リレー
F	20 A	SOL 類、オルターネーター
G	10 A	
H	10 A	スペア
I	20 A	

20. オプション

20-1. バックモニター

バックモニターをオプションで取り付けることが可能です。

見えにくいバケット後方をモニターで確認でき、走行時やバケット内の刈り芝などを排出する際の安全性、作業性が向上します。

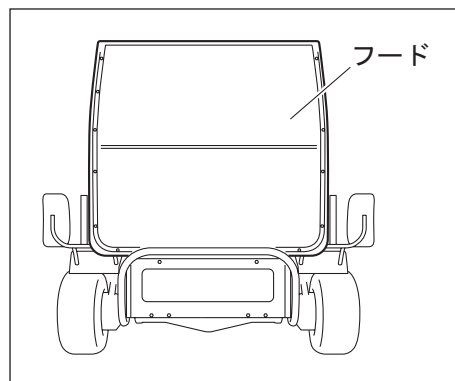


20-2. フード

フードをオプションで取り付けることが可能です。

強い風や埃からオペレーターを守り、快適に作業ができます。

※取り付けには、一部フレーム加工が必要となります。



BARONESS[®]
Quality on Demand



株式会社 共 栄 社

〒442-8530
愛知県豊川市美幸町1-26

TEL (0533) 84-1221
FAX (0533) 84-1220